

第三次湖南省総合計画（案）

目次

第1部 はじめに

1. 策定にあたって	2
（1）計画策定の趣旨	2
（2）総合計画の構成と期間	2
（3）計画の策定体制	3
（4）目標設定と施策評価	3
（5）総合戦略との一体的な取組	3
（6）SDGsの理念に基づく 持続可能なまちづくりを推進.....	3
2. 湖南市の現状	4
（1）社会潮流	4
（2）統計からみる湖南市の現状	6
①人口の状況	6
②産業の状況	11
（3）市民ニーズ	14
①市民意向調査	14
②市民ワークショップ	19

第2部 基本構想

1. まちづくりの理念と将来像	22
まちの将来像	22
湖南市って、こんなまち ー湖南市の特徴	24
まちづくりの目標・めざすまちの方向性・ 重要な政策テーマ	26
2. まちづくりの目標	28
まちづくりの目標1 みんなで共に進める仕組みをつくろう	28
まちづくりの目標2 うるおいのあるまちをつくろう	33
まちづくりの目標3 活気あるまちをつくろう	37
まちづくりの目標4 ほっとする暮らしをつくろう	43
まちづくりの目標5 いきいきとした暮らしをつくろう	49
まちづくりの目標6 明日を拓く ^{ひら} 仕組みをつくろう	54

第3部 基本計画

前期基本計画の基本目標	58
前期基本計画の見方	60
前期基本計画	62
第1章 小規模多機能自治のまちづくり	62
～みんなで共に進める仕組みをつくろう～	
第2章 自然を生かし、 自然と共生するまちづくり	76
～うるおいのあるまちをつくろう～	
第3章 人と産業が集い、 公共交通でつながるまちづくり	88
～活気あるまちをつくろう～	
第4章 こどもが主役の、生涯健康で 安心して暮らせるまちづくり	110
～ほっとする暮らしをつくろう～	
第5章 市民文化を築き、育み、 伝えるまちづくり	136
～いきいきとした暮らしをつくろう～	
第6章 効率的・効果的な 行財政システムと人づくり	146
～明日を拓く仕組みをつくろう～	

第4部 総合戦略

第三期湖南省総合戦略

～まち・ひと・しごとに笑顔があふれる4つのプラン～

1. 地方創生の基本的な考え方 (国・県の考え方)	153
2. 第三次湖南省総合計画と 連動した取組	156
3. 人口ビジョンからのアプローチ	157
4. 4つのプランと目標指標	159
5. 7つの政策パッケージ	160
1. 働く場の創出プラン	161
(1) 産業力の強化	161
(2) 多様な雇用・働き方の実現	164
2. ひとの流れの創出プラン	166
(3) ふるさとづくりの促進	166
(4) 観光と交流による活性化	169
3. こどもまんなかプラン	171
(5) こどもの幸せ、将来の希望の実現	172
4. まちづくりプラン	174
(6) 持続可能なまちづくり	174
(7) 安心して暮らせる基盤づくり	177

第1部
はじめに



1. 策定にあたって

1. 策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

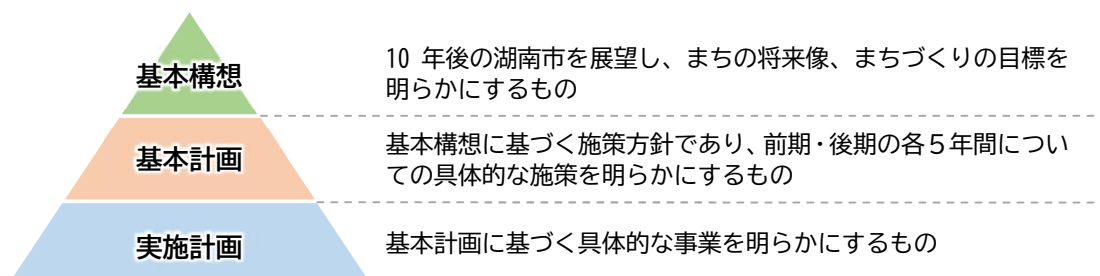
湖南省では2016年（平成28年）に第二次湖南省総合計画を策定し、基本構想に掲げる将来像「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湖南」の実現に向け、さまざまな施策に取り組んできました。

第二次湖南省総合計画の計画期間が2025年度（令和7年度）で終了することから、近年の社会経済情勢の変化やまちづくりの進展状況を踏まえ、改めて市民の意向を確認しながら、新たな課題に対応した施策展開を図るため、第三次湖南省総合計画の基本構想および前期基本計画を策定します。

(2) 総合計画の構成と期間

① 計画の構成

総合計画を一言で表わすと、市における「まちづくりの最も基本となる計画」です。総合計画は、基本構想、基本計画および実施計画により構成します。

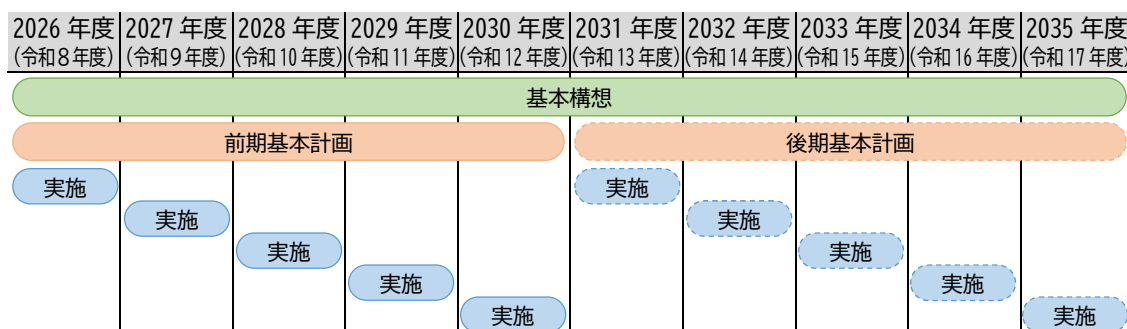


② 計画の期間

基本構想は、10年後の湖南省を展望し策定します。

基本計画は、2026～2030年度（令和8～12年度）までを前期基本計画、2031～2035年度（令和13～17年度）までを後期基本計画とし、それぞれ5年間を計画期間として策定します。

実施計画は、毎年見直す方式（ローリング方式）により別途策定します。





(3) 計画の策定体制

本計画は、一般公募の市民などで構成する総合計画審議会が中心となって策定し、審議会については一般公開を行いました。また、18 歳以上の市民をはじめ、中学生や高校生を対象とした市民意向調査（アンケート調査）を実施するとともに、計画案を公開した上で市民から意見を求め、これらの結果を計画内容に反映するよう努めました。

(4) 目標設定と施策評価

将来像の実現に向けた施策の達成状況を市民にわかりやすくするため、市民意向調査などに基づく基本目標を設定し、進捗状況のチェックによる施策評価を行います。

(5) 総合戦略との一体的な取組

現行の湖南省市きらめき・ときめき・元気創生総合戦略の計画期間満了に伴い、第三期総合戦略を本計画と一体的に実行することで、効果的かつ効率的に取組を推進します。

(6) S D G s の理念に基づく持続可能なまちづくりを推進

S D G s とは、「Sustainable Development Goals」の略であり、2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際社会の共通目標です。「だれ一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、「2030 年（令和 12 年）」を年限とする 17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

湖南省は、2020 年（令和 2 年）7 月に「S D G s 未来都市」として内閣総理大臣から認定を受けており、S D G s の理念に基づき地域課題の解決につなげていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





2. 湖南省の現状

2. 湖南省の現状

(1) 社会潮流

これからのまちづくりを考える上で考慮すべき全国的な社会の潮流を整理します。

暮らしを取り巻く環境

■人口減少・少子高齢化の進行、こども施策の推進

- 出生率の低下と平均寿命の延伸により、人口減少・少子高齢化が加速しています。
- 少子化対策として、子育て支援や教育環境の整備などのこども施策が進められています。

■自然災害の激甚化・頻発化、防災・減災対策の推進

- 気候変動の影響により、豪雨や台風、洪水、土砂災害、地震などの自然災害がこれまで以上に激しく頻繁に発生しています。
- 防災・減災の取組が社会的に重要視され、排水対策の強化、施設の耐震化などが進められるとともに、地域住民や事業者による自主的な防災・減災活動を促進する取組も拡大しています。

■脱炭素化の推進、環境配慮への投資拡大

- 2050年カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること）や、脱炭素社会の実現をめざすことが宣言され、脱炭素を通じて地域課題を解決し、地方創生に寄与する取組が広がっています。
- ESG投資（環境、社会、企業統治に配慮している企業に行う投資）が拡大しています。

■SDGsの推進

- SDGs（持続可能な開発目標）は、国際的な共通目標として、日本でも達成に向けた取組が進められています。
- 経済、社会、環境をめぐる幅広い課題への対応としてさまざまな主体の取組が求められています。

■感染症対策（新たな生活様式）の定着

- 新型コロナウイルス感染症の流行を受け、感染リスク低減のため、リモートワークや非接触・非対面での医療相談、行政手続きなどが普及しています。

■GXの推進

- 脱炭素社会の実現に向けた取組を通じて、経済や社会システムを変革するGX（グリーントランスフォーメーション）を推進しています。

■DXの推進

- コロナ禍を契機としたデジタル技術の進展やポストコロナの時代における「人間中心の社会」への機運の高まりを背景として、あらゆる分野でデジタル技術を活用し、地域や社会の課題を解決するDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が求められています。



ひとを取り巻く環境

■グローバル化、多文化共生、 多様な価値観の尊重

- グローバル化が進む現代において、多様性（ダイバーシティ）や性別の枠組みにとらわれない（ジェンダーレス）などの考え方が普及し、性別や年齢、国籍、文化などに関わりなく、多様性を尊重しながら個性や能力を十分に発揮することができる社会の構築が求められています。

■Well-Beingの推進

- 社会的、経済的、環境的に個人の権利や自己実現が保障され、良好な状態にあることを指す「Well-being」の考え方が普及しています。
- 働き方改革やコロナ禍でライフスタイルの多様化が進み、家庭や職場・学校などとは違う、リラックスできて心地のよい第3の居場所「サードプレイス」の重要性が高まっています。

自治を取り巻く環境

■地方創生の視点でのまちづくり

- 地方から都市への一極集中を是正するため、地方自治体が主体となり、それぞれの課題を解決しながら、地域独自の魅力を生かし、地方の活性化と持続可能なまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■市民と行政の協働による まちづくり

- 人口減少・少子高齢化の進行に伴い、地域課題は多様化し、行政だけではきめ細かく対応することが困難になってきています。市民と行政がともに助け合い一体となってまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

■民間資本・ノウハウの導入

- 多くの地方公共団体では、厳しい財政状況や人口減少、公共施設の老朽化などの問題に直面しており、民間資本やノウハウを取り入れて魅力向上を図りながら公共施設の管理運営を継続していく官民連携事業が全国で検討・実施されています。

■5G社会における情報通信技術 の有効活用

- 第5世代通信（5G）の普及とともに、AI、モノのインターネット（IoT）などの最新のデジタル技術の活用により、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、課題の解決を図りながら、生活の質の向上を図るスマートシティの取組が進められています。

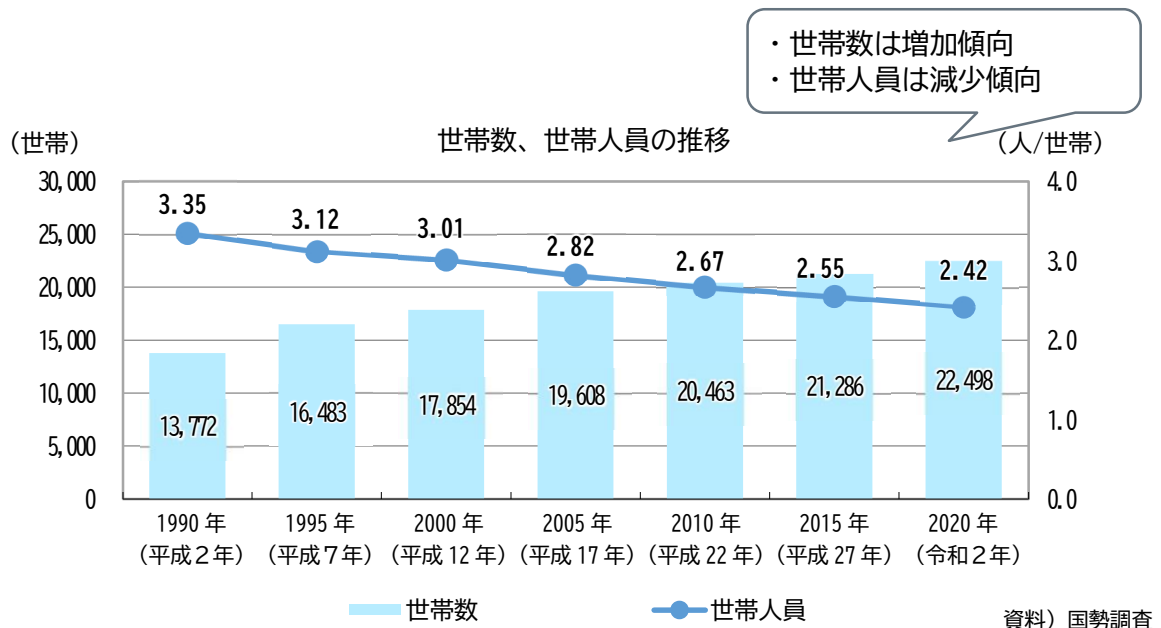
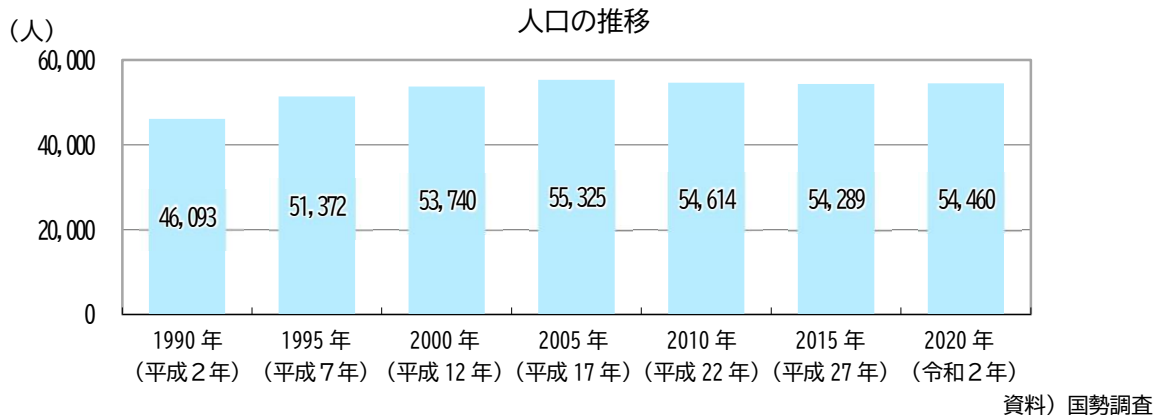


2. 湖南省の現状

(2) 統計からみる湖南省の現状

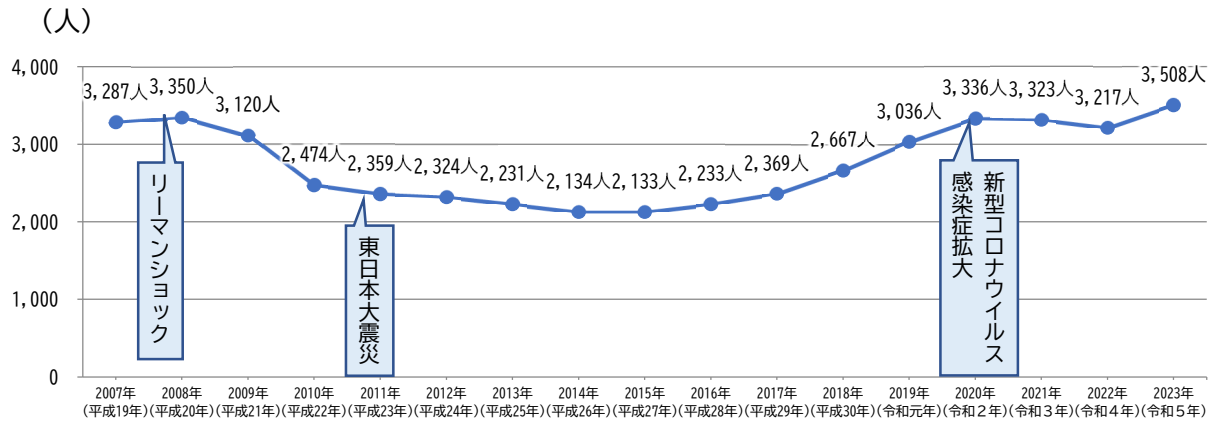
①人口の状況

■総人口・世帯数の推移

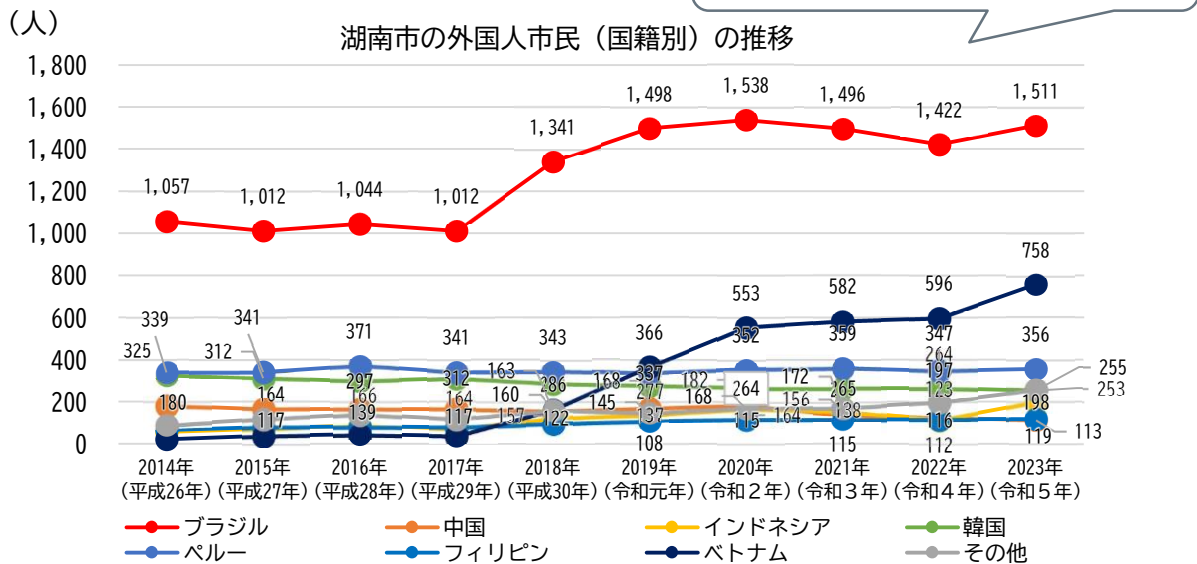




外国人市民（総数）の推移



外国人市民（国籍別）の推移

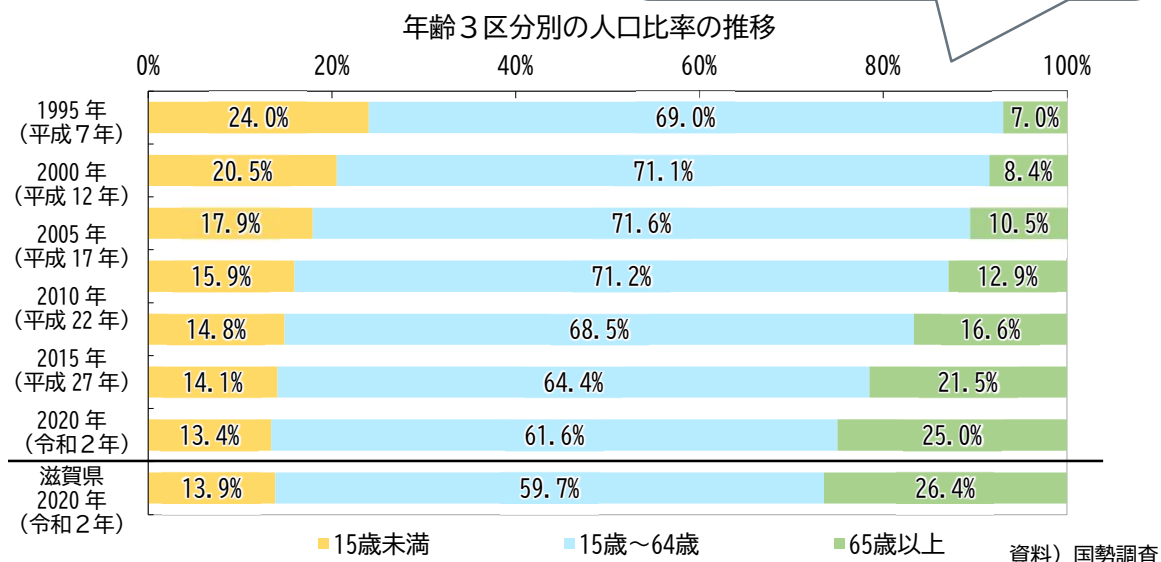




2. 湖南市の現状

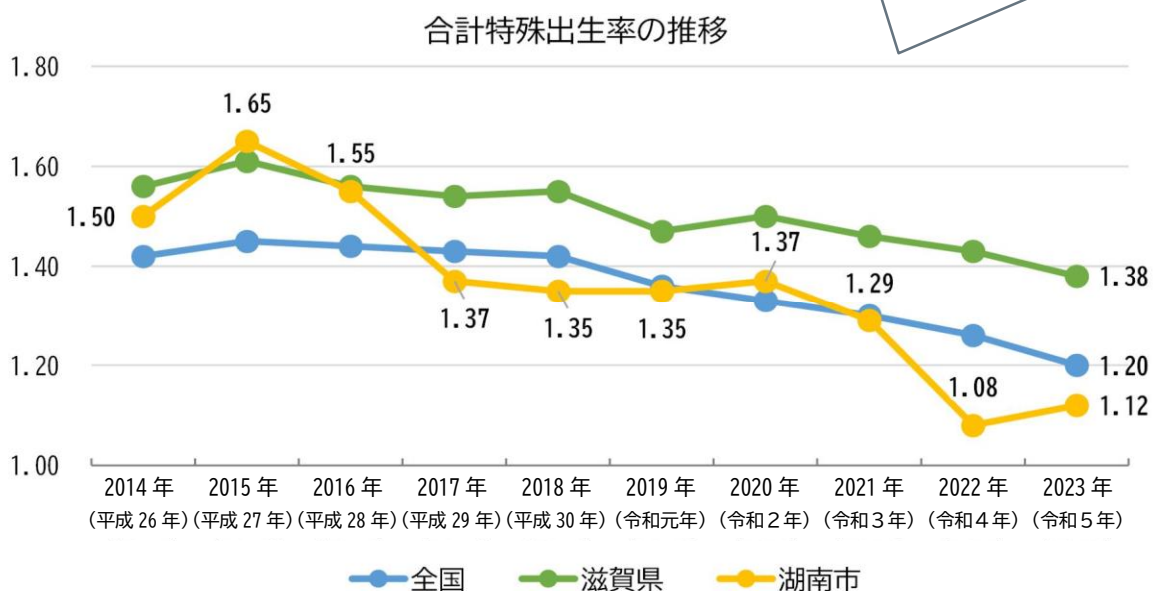
■年齢3区分別人口比率の推移

- ・年少人口（15 歳未満）・生産年齢人口（15 歳～64 歳）は減少傾向
- ・老年人口（65 歳以上）は増加傾向



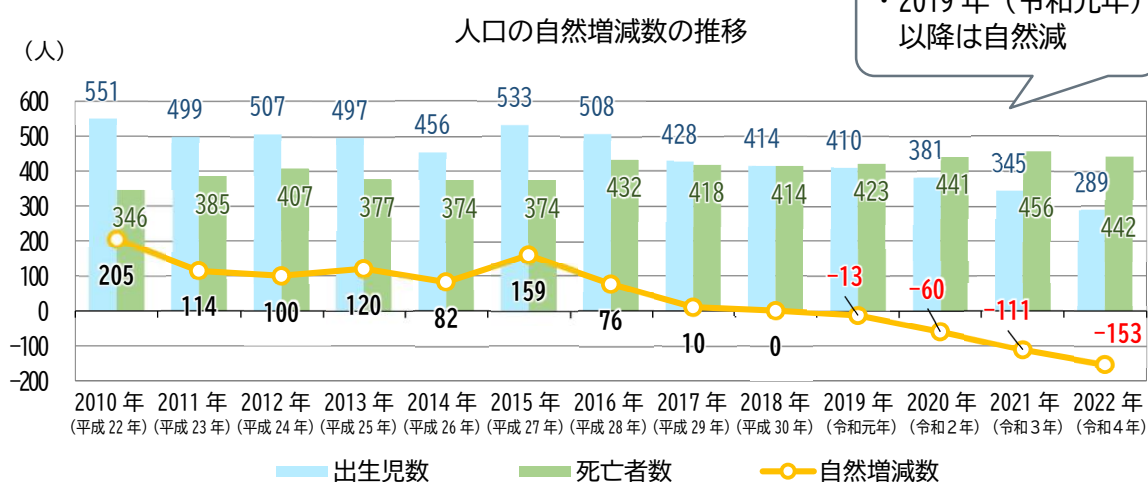
■合計特殊出生率の推移

- ・合計特殊出生率とは、15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が生涯に産む子どもの平均人数を推計した指標



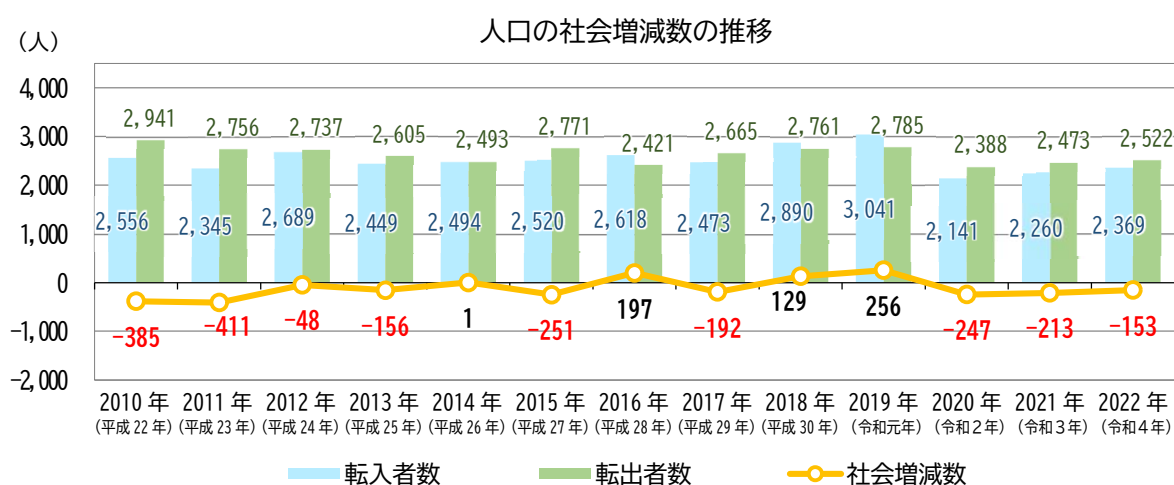


■自然動態（出生・死亡）の推移



資料) 総務省統計局

■社会動態（転入・転出）の推移



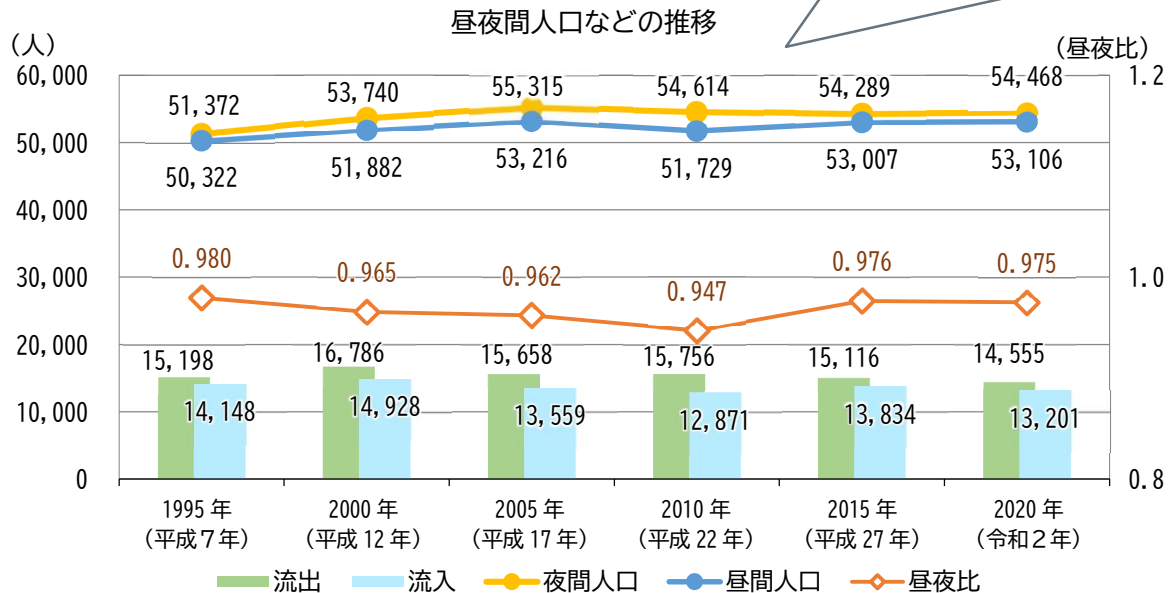
資料) 総務省統計局



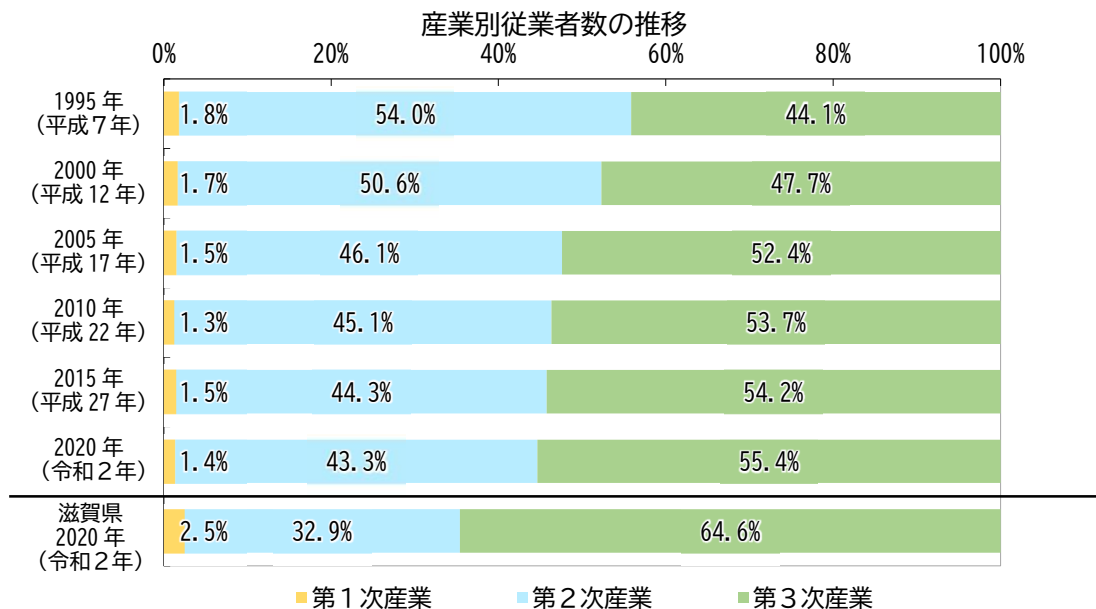
2. 湖南市の現状

■昼夜間人口比率

・昼間人口は、その地域に住んでいる夜間人口に、通勤・通学で流入してくる人口を足し、流出する人口を引いたものです。夜間人口は、その地域に住んでいる住民の数で、一般的に「人口」と呼ばれるもの



■産業別従業者数



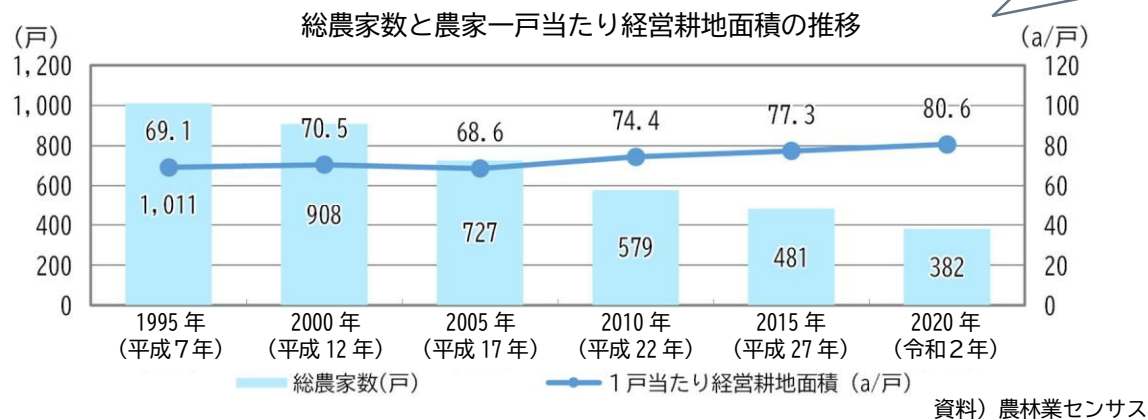
- ・少子化により、湖南市の人口は2005年（平成17年）をピークに減少傾向であり、人口が減る中でも高齢者世帯の増加が進むことで世帯数は増加傾向です。
- ・湖南市は、外国人労働者の流入による影響緩和の要素もありますが、人口減少は働き手の不足につながり、世帯数が減少を迎えると消費の減少にも直結します。住宅需要など、地域経済への影響に備えることが必要です。
- ・従業者数の割合は、第1次、第2次産業は減少傾向、第3次産業は増加傾向です。
- ・生産年齢人口の減少により、後継者不足の課題に直面する中小企業などの増加が想定されます。多様な人材や若者、女性が活躍する魅力的な働く場や人づくりが必要です。



②産業の状況

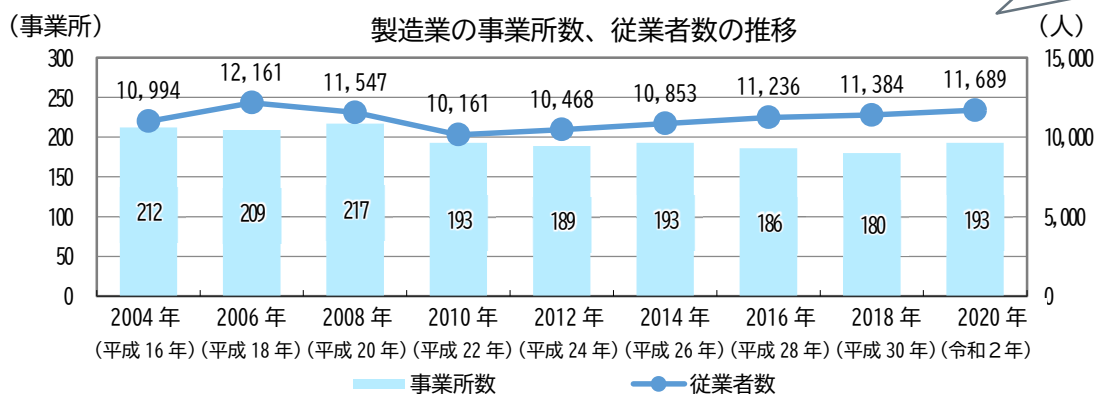
■農業

・総農家数は減少傾向



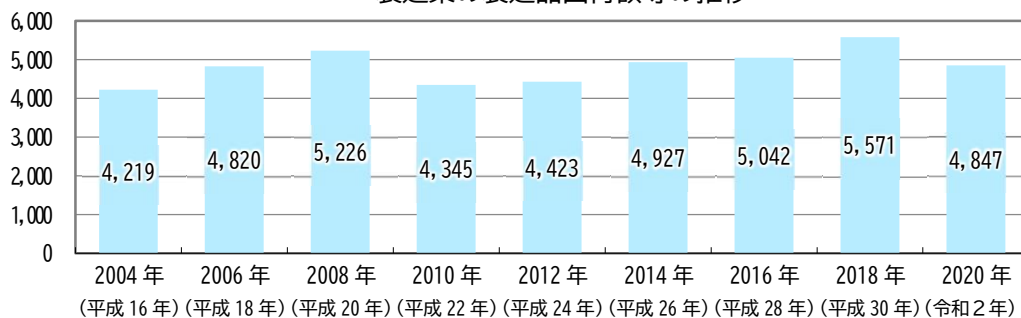
■工業

・従業者数は2010年(平成22年)以降増加傾向



(億円)

製造業の製造品出荷額等の推移

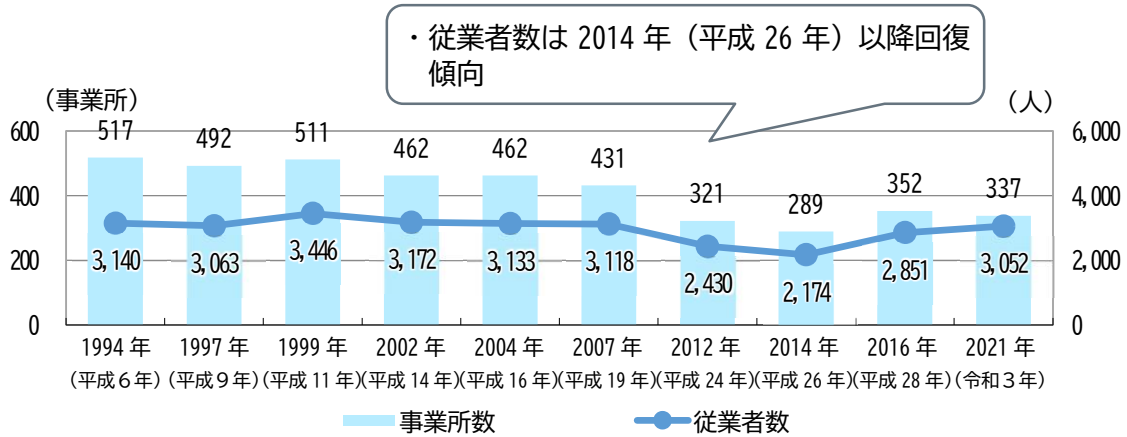




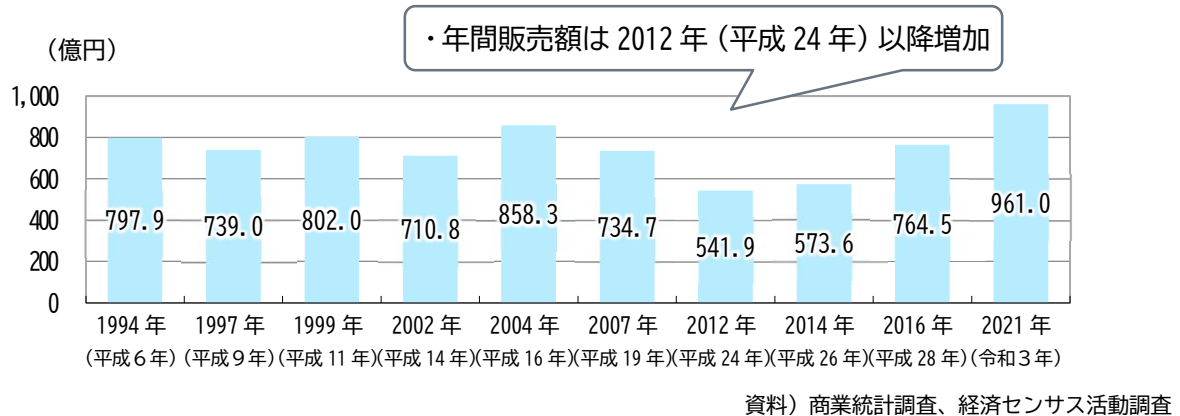
2. 湖南市の現状

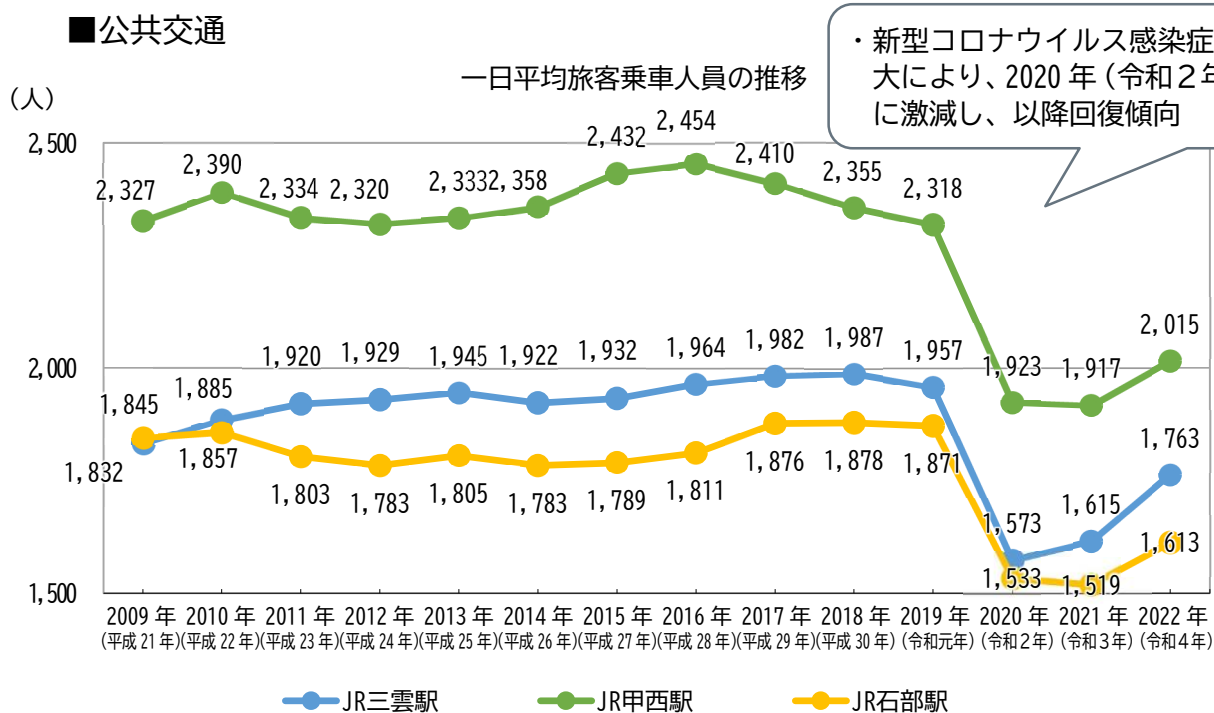
■商業

卸売業・小売業の事業所数、従業者数の推移



卸売業・小売業の年間販売額の推移





- ・工業における製造業の従業者数や商業における卸売業・小売業の従業者数は増加傾向です。
- ・デジタルや省エネ・再エネ、インバウンド需要などの成長が見込まれる分野を視野に入れた地域産業の振興や、これまで湖南市のものづくり産業を支えてきた経営者や職人の人財に重きをおき、生産性の向上や技術継承など、持続可能な産業基盤の強化が必要です。
- ・コミュニティバスを含め、公共交通の利便性向上に向け、草津線の増便や企業・市民の利用増進のための施策を、市全体で協働しながら着実に実行していくことが重要です。



2. 湖南省の現状

(3) 市民ニーズ

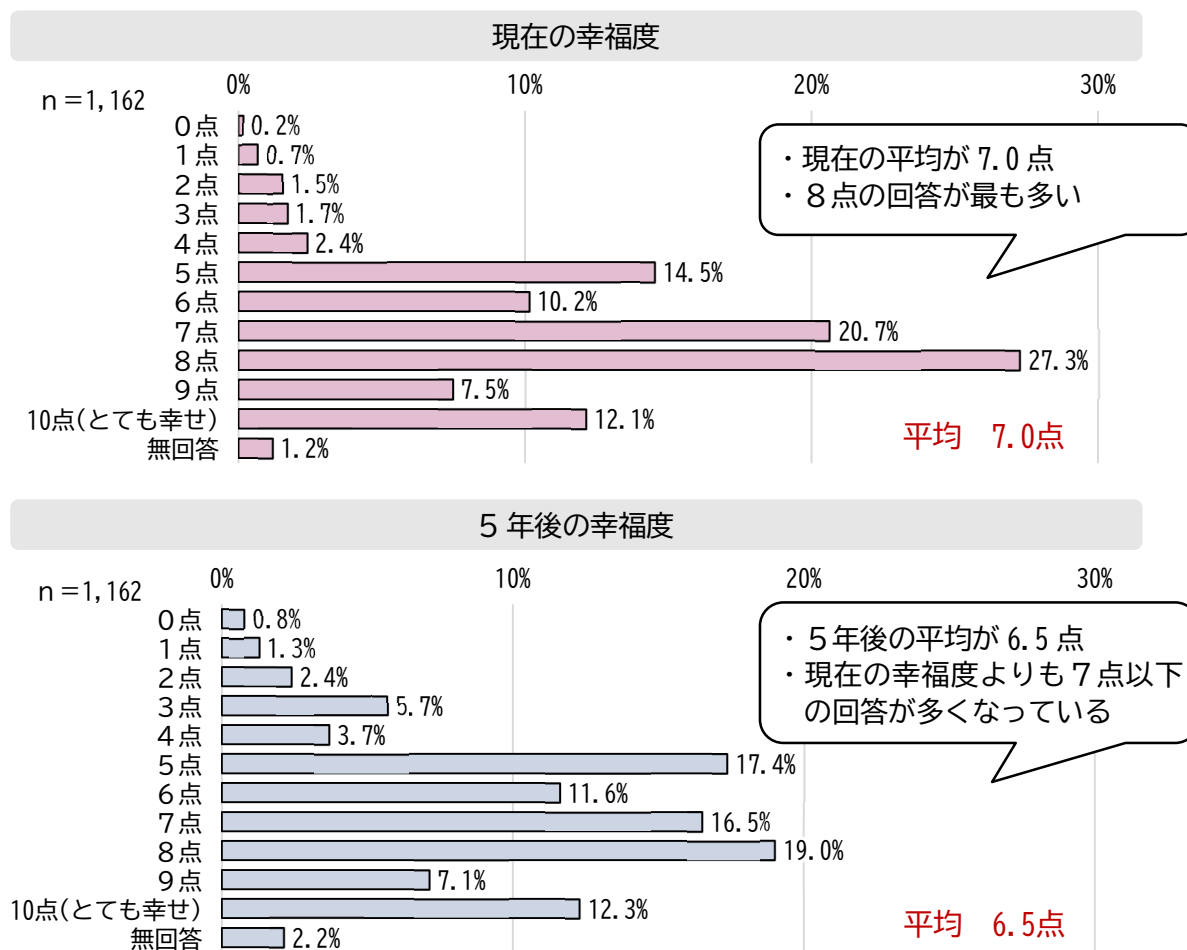
①市民意向調査

■調査概要

調査概要	アンケート調査の対象者		
	一般	高校生	中学生
実施期間	2024 年（令和 6 年） 9 月 9 日（月）～9 月 30 日（月）	2024 年（令和 6 年） 10 月～11 月に実施	
調査方法	発送は郵送、 回答は郵送およびWEB回答	WEB回答	
配布数	4,000 件	330 人	965 人
有効回答数	1,162 人（うちWEBは 178 人）	303 人	812 人
回収率	29.0%	91.8%	84.1%

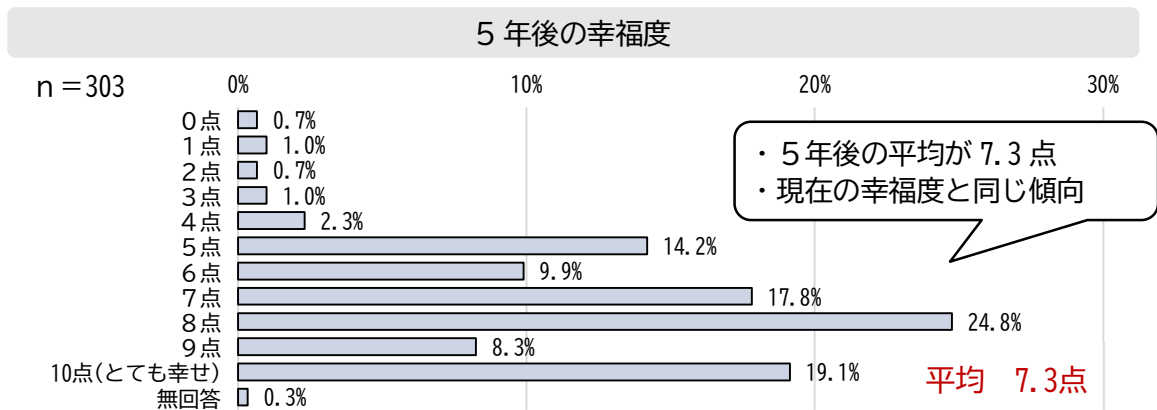
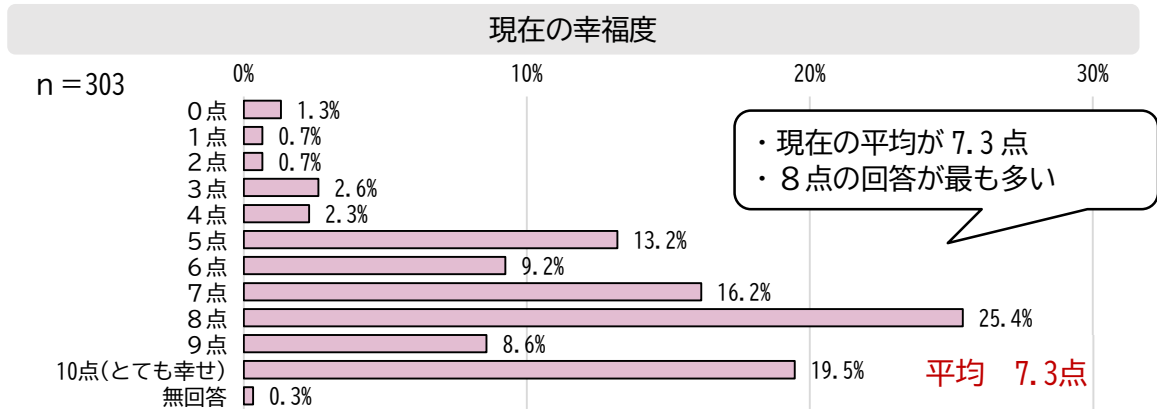
■あなたの幸福度

【一般】

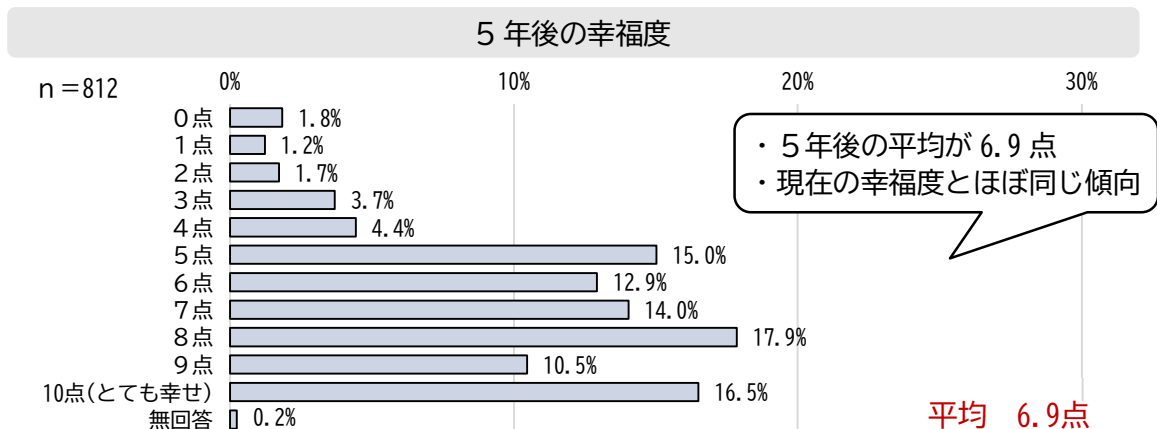
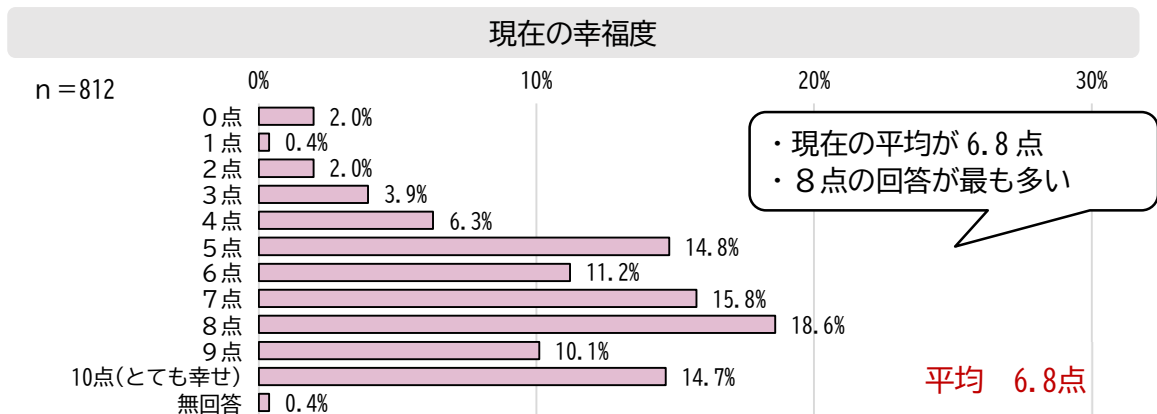




【高校生】



【中学生】



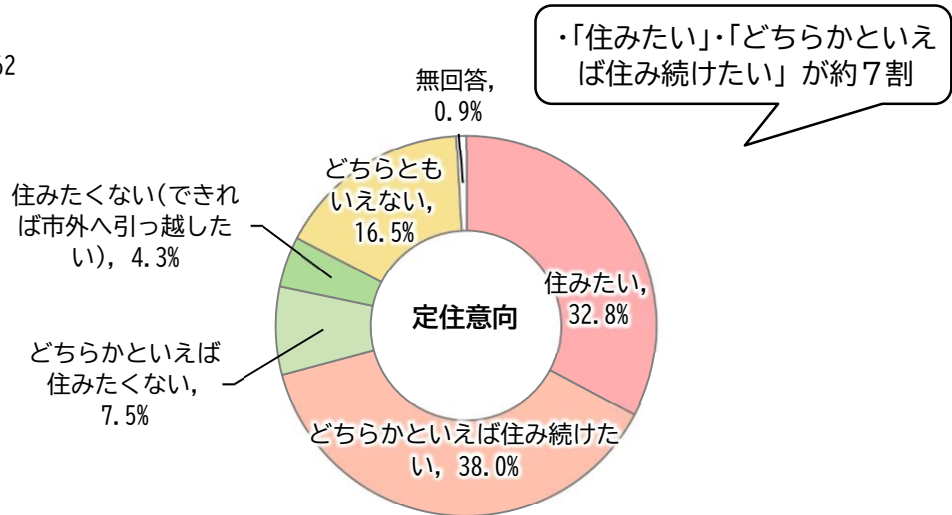


2. 湖南省の現状

■ 湖南省への定住意向

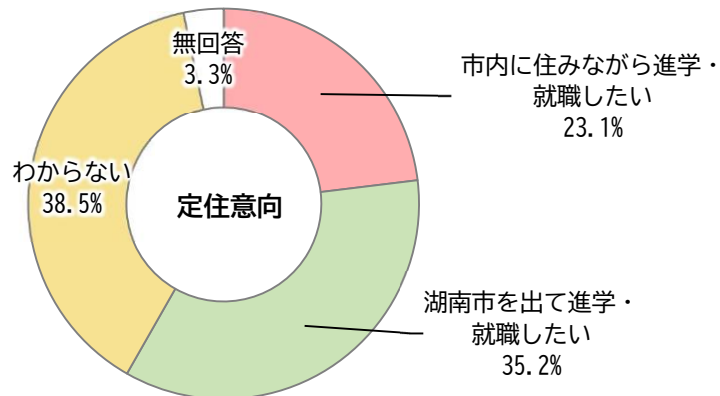
【一般】

n=1,162



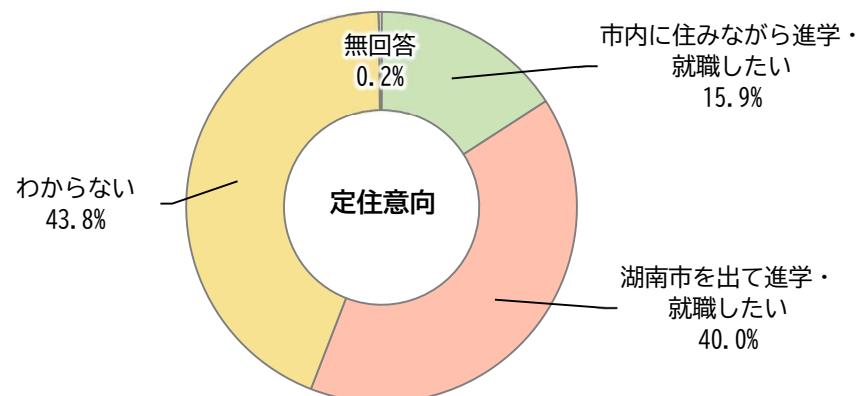
【高校生】

n=91



【中学生】

n=812

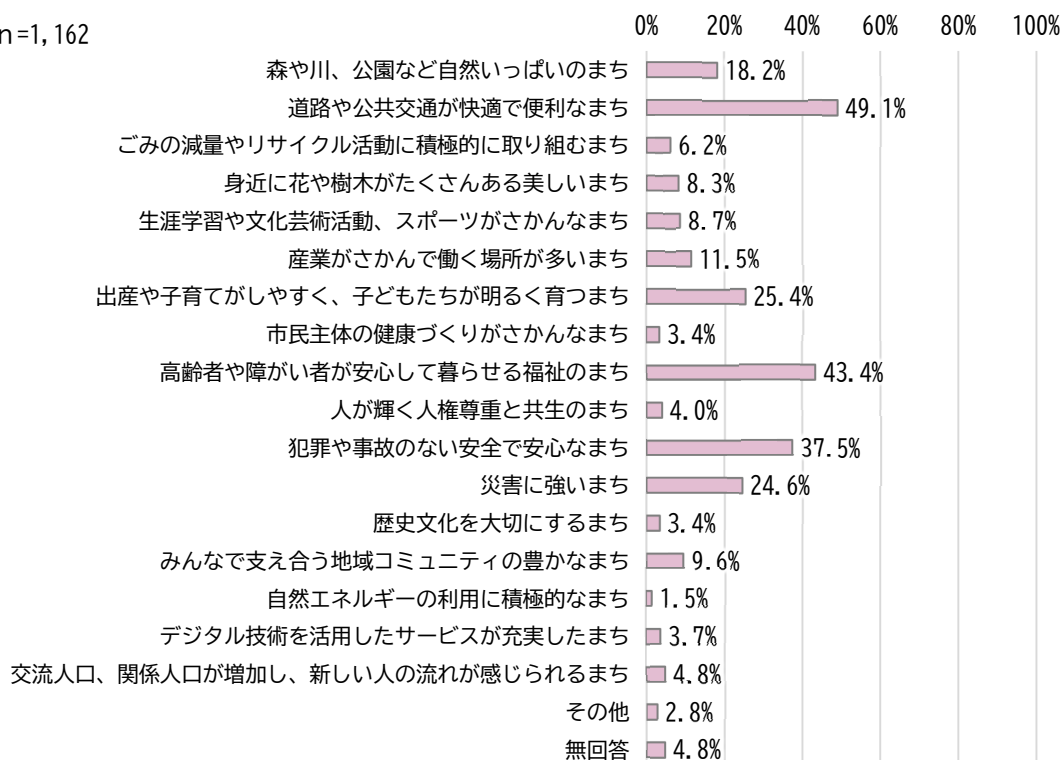




■みんなが住みたい湖南省のまちのイメージ

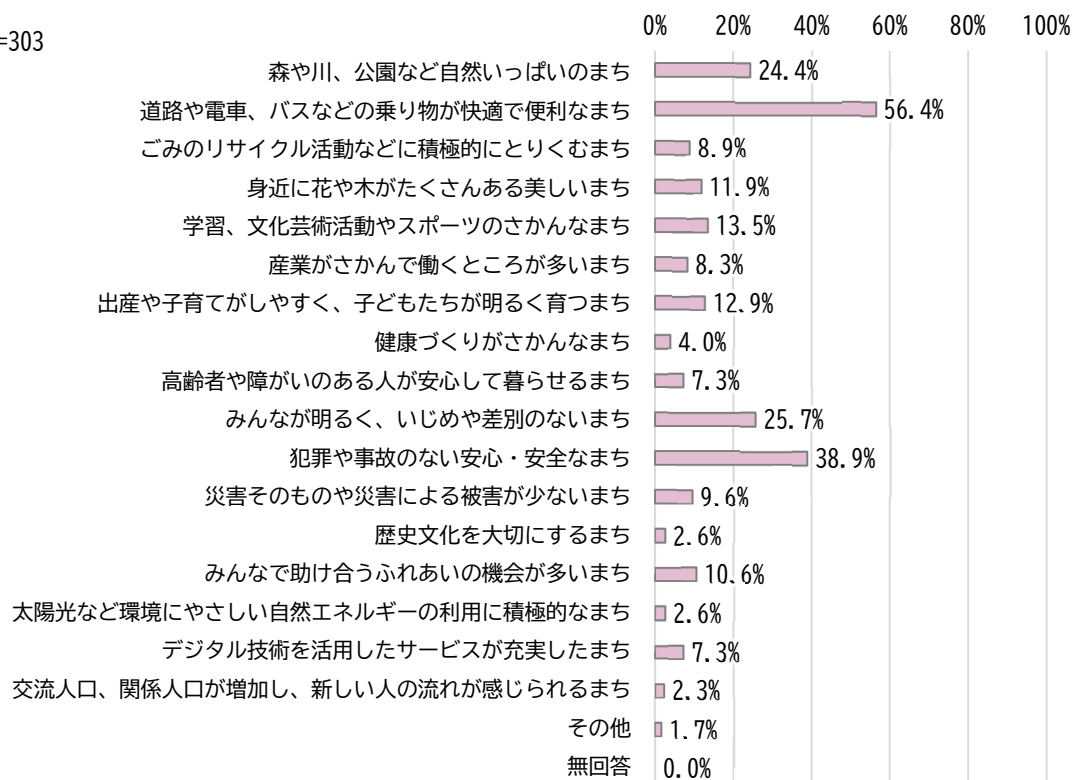
【一般】

n=1,162



【高校生】

n=303

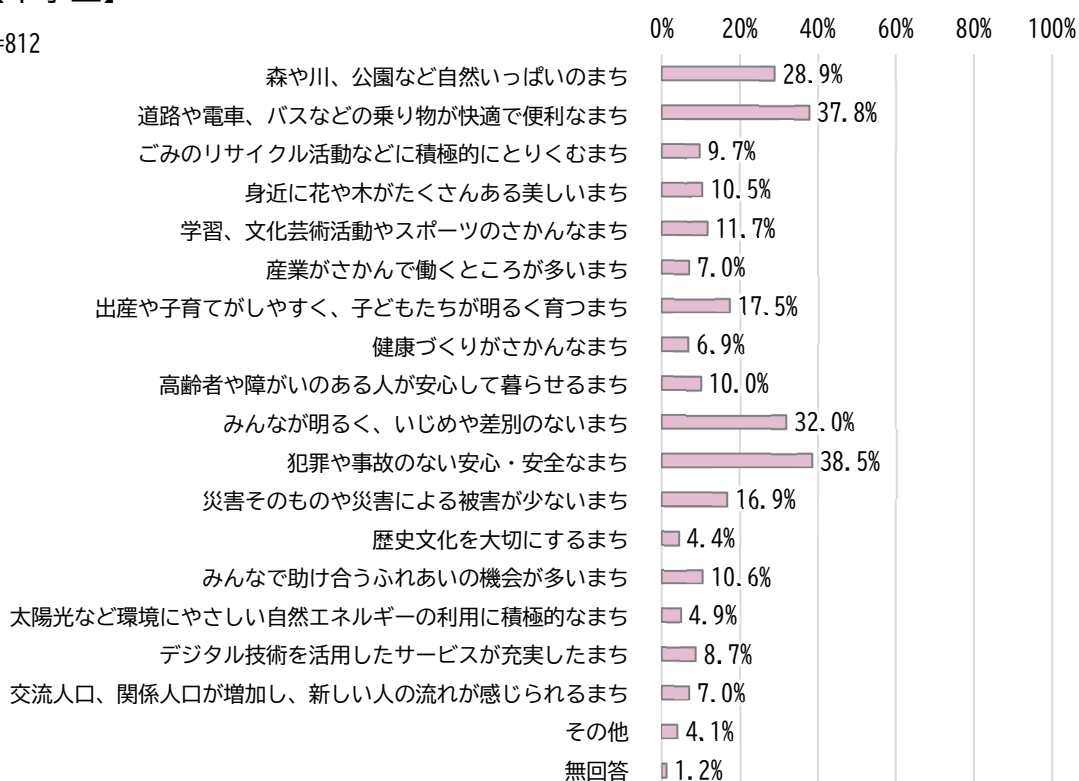




2. 湖南省の現状

【中学生】

n=812



■ 湖南省の取組について 【一般のみ】

・公共交通やインフラ施設、医療の充実、
ライフライン関係を重要視している



・インフラ施設や環境
保全の取組に対する
満足度が高い

・特に、公共交通を充実させ、快適性・利便性の向上を図ることや、医療を充実させ、高齢者などが安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが求められています。



②市民ワークショップ

■実施概要

公募などにより参加者を募集し、21人の市民と7人の市内中学生がグループに分かれ、全4回のワークショップで6つのグループでテーマに分かれて話し合いました。

グループ テーマ	①市民主体のまちづくり ②身近な公園・緑地の整備・保全 ③公共交通の充実		④障がいのある人、高齢者、こどもの自立支援 ⑤若者の社会参画、社会教育の推進、一人一人が活躍できるまち（場づくり） ⑥特色のあるふるさとづくり	
回数	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2024 年（令和 6 年） 12 月 15 日（日）	2025 年（令和 7 年） 1 月 19 日（日）	2025 年（令和 7 年） 2 月 16 日（日）	2025 年（令和 7 年） 3 月 16 日（日）
主な 検討内容	湖南市の魅力や 改善点、取り上げ たいテーマ	テーマに沿って 重要な取組や 方向性	重要な取組や 方向性に沿った 企画アイデア	みんなでつくる 将来のまちの姿

■市民の意見、アイデア

湖南市の良いところ

地域でまちづくり活動をしている
自然が豊かな
公園が多い
歴史がある
色んな人がいて差別がない
高齢者福祉に力を入れている
治安がいい
第2次産業が发展している
障がいのある人が尊重されている
鉄道駅が3つある
エネルギーの取組が進んでいる
車での移動がしやすい
伝統を大切にしている

湖南市の課題

地域活動の担い手不足
交流・ふれあいの場が少ない
公園管理の負担が増加
バス運営状況が厳しい
近所との繋がりが希薄
歴史資源が活用しきれていない
困り事の相談先がわからない
若者の湖南市離れ
独居高齢者が増えている
湖南市に特徴的なものがない
湖南市の知名度が低い
湖南市の施策の認知不足
社会問題への変化への対応が十分ではない



課題の解決策や方向性・具体的な企画案

次世代の担い手も参加したくなる自治会づくり
世代を超えた交流・ふれあいの機会創出
官民連携で困り事に対応する仕組みづくり
総合相談窓口の設置
自治会の重要性を伝える
今ある施設を活用した全天候型遊び場、多目的な公園の整備
オープンスペースの配置
悩みを話せる機会づくり
公園管理の効率化
河川空間の活用
移動しやすい環境づくり
新たな交通手段の導入
地域資源を活用した魅力づくり
利用実態に応じたバスの運用
地産地消のNEWソウルフードづくり





2. 湖南省の現状

■グループごとに検討した「みんなでつくる将来のまちの姿」

グループ・テーマ	みんなでつくる将来のまちの姿	
	5年後のめざす姿	10年後の希望
① 市民主体の まちづくり	▶ 40～50 歳代が地域の中で活躍し、若者が楽しめる地域行事やイベントが充実し、多世代のふれあいの機会が増え、気軽に自分の意見を言える風通しの良い自治会になる	▶ 40～50 歳代が中心となって、小学生・中学生・高校生に地域コミュニティ活動を楽しみながら経験する機会をつくる ▶ 全世代が地域で活躍できる機会・場がある活発なまち・地域になる
② 身近な公園・緑地 の整備・保全	▶ 子育て世帯が住みやすいまちになり、定住者が増える	▶ 地域ふれあい公園を大きさや機能、管理体制に応じて分類・整理し管理を効率化する ▶ 利用状況を調べ、利用が少ない公園など不要な公園は統合するなど検討する ▶ 小さい公園は、地元自治会で管理する ▶ 利用状況や管理状況がだれでもわかるように公園管理アプリを導入して効率化する
③ 公共交通の充実	▶ 公共交通を利用して通勤・通学や観光ができる ▶ 高齢者は移動販売や送迎サービスを利用しながら日常生活を送ることができる	▶ 市内3駅を中心としたコンパクトなまちづくり(駅周辺に企業誘致、居住地開発、既存の商店街活性化など)に取り組む ▶ 既存の商業施設、職場、居住地をつなぐ交通ネットワークを整備する(コミュニティバスの見直し(料金やルートなど)、ライドシェア・乗り合いタクシーの導入、国道1号の拡幅など) ▶ 適正な規模でこどもたちの学校などを再配置する
④ 障がいのある人、 高齢者、こどもの 自立支援	▶ SNSで住みやすい湖南省の口コミが広がり、困ったときに相談できる心強さや定住のしやすさで選ばれ、人口が増え続けている	▶ だれもが夢を持てる湖南省(「人の力を生かす(窓口の充実)」、「だれもが社会に参加できる」)にする
⑤ 若者の社会参画、 社会教育の推進、 一人一人が活躍で きるまち(場づくり)	▶ 引っ越してきた世帯が地域コミュニティに馴染み、親世代が地域見守り活動への参加や相談を受ける側になり、成長したこども世代が湖南省に居住し続ける	▶ 小規模多機能自治の取組と連携する ▶ 『やさしいまち』(安心できるまち、ニコニコできるまち、福祉のまち、一人一人違う人に寄り添うまち、受け止められるまち、一人一人が輝いているまち)にする
⑥ 特色のある ふるさとづくり	▶ 新たなソウルフードのアイデアを出した学生が市内でお店を構え、製作に協力した企業の知名度が向上し、地域の活性化につながる	▶ 若者が湖南省に詳しくなって外に発信する ▶ 若者から情報を他の世代に伝えていく仕組みができる



第2部 基本構想



1. まちづくりの理念と将来像

1. まちづくりの理念と将来像

まちの将来像

市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたいとなるまちをめざし、
湖南省の将来像（10年後）を、以下のように定めます。

【KGI（重要目標達成指標）】

10年後の目標：住民幸福度7.2点

（基準値※ 7.0点）

※基準値は市民意向調査における住民幸福度

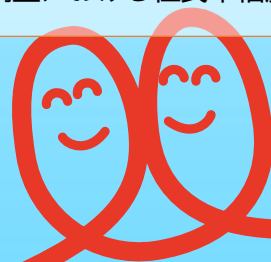
まちの将来像

ずっとここに暮らしたい！

みんなで創ろう

笑顔つなぐ・

つながる湖南

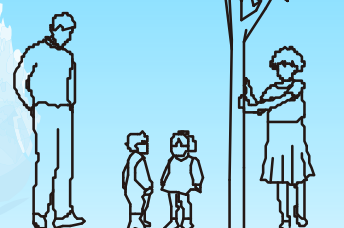


若者からシニアまで全世代が地域
コミュニティで活躍できる機会・
場があり、地域住民の交流が活発
で地域づくりが継承されている

文化・芸術やスポーツなどさまざま
なアクティビティを通じて仲間が集
まり、読書や散歩など自由に時間を
過ごせる多目的な空間がある



利用しやすく人が集い憩う快適な
大規模公園、プロムナード、地域
住民が使いやすく管理しやすい身
近な公園が適切に配置されている





湖南省が掲げるまちの将来像「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう 笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向けて、本計画に定める政策を実施することによって、10年後に到達しているまちの姿をここに描きます。

多様な背景を持っている市民みんながそれぞれの立場で社会に参加でき、だれもが気軽に相談できる窓口がある



3駅を中心としたコンパクトな市街地が形成され、鉄道、バス、自家用車の連携による交通ネットワークが確立している



学生もシニアもそれぞれの得意な分野を生かして協力しながら、学生が地域を笑顔にするまちづくり活動にチャレンジできる仕組みがある

湖南省市民憲章 まちづくりの5つの理念

- ◆ 美しい水と緑を大切にし、自然と調和したまちをつくります。
- ◆ たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくります。
- ◆ 子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくります。
- ◆ ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくります。
- ◆ 社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくります。



1. まちづくりの理念と将来像

湖南省って、こんなまち—湖南省の特徴

湖南省は自然環境（野洲川、国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」など）、歴史文化遺産（湖南三山など）が豊富なまちで、交通ネットワーク、工業団地の整備により発展してきました。外国人の居住割合は県内で最も高く、多様な文化が育まれています。また、湖南省は災害が比較的少ないため、安心して暮らすことができます。

【自然豊かな広域交流のまち】

- ・南北に阿星山系と岩根山系、中央には琵琶湖に注ぐ県内最長河川の野洲川、美しい田園風景が広がる自然豊かなまち。大阪、名古屋から100km圏内にあり、国道1号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王IC、国道8号にもアクセスが良い広域交流拠点のまち



【歴史・伝統文化が豊かなまち】

- ・東海道石部宿、湖南三山など有形の歴史文化遺産、滋賀の伝統工芸品にもなっている近江下田焼、酒蔵などがある伝統文化のまち



【ものづくり（工業）のまち】

- ・県内最大級の湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地があるものづくりのまち





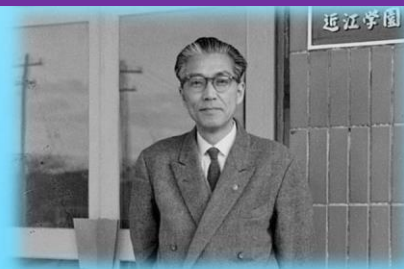
【多文化共生のまち】

- ・外国人の居住割合が県内1位の多文化共生のまち



【障がいのある人と共に歩む福祉のまち】

- ・「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園があり、全国に先駆けて構築した発達支援システムを持つ福祉のまち



【脱炭素に取り組むまち】

- ・「SDGs 未来都市」「脱炭素先行地域」に選定され、自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を中心に先行的な脱炭素政策に取り組むまち



【市民が自分たちでつくるまち】

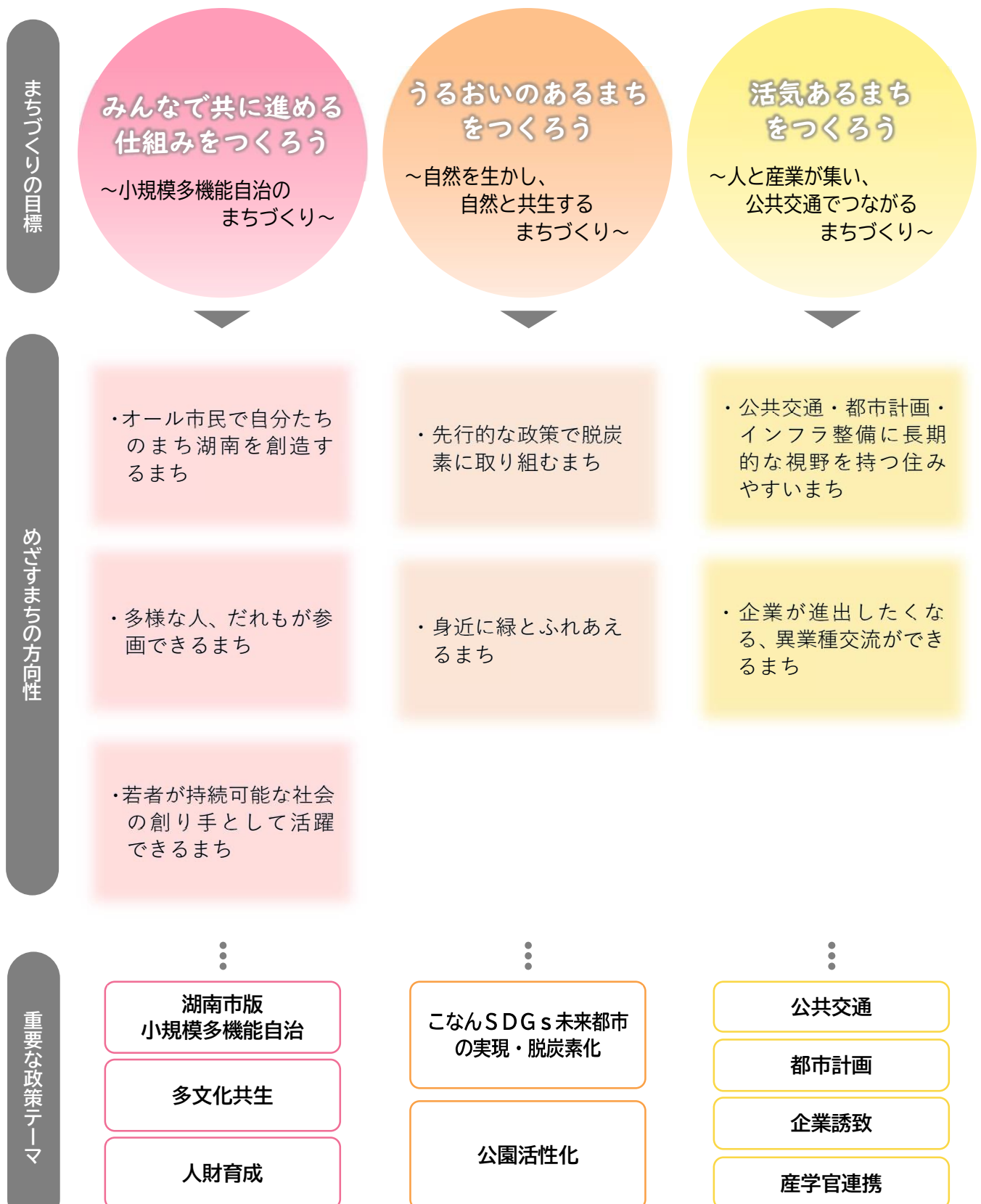
- ・市内に7箇所の地域まちづくり協議会があり、自分たちのまちは自分たちでつくる基本理念に基づく活動を行うまち

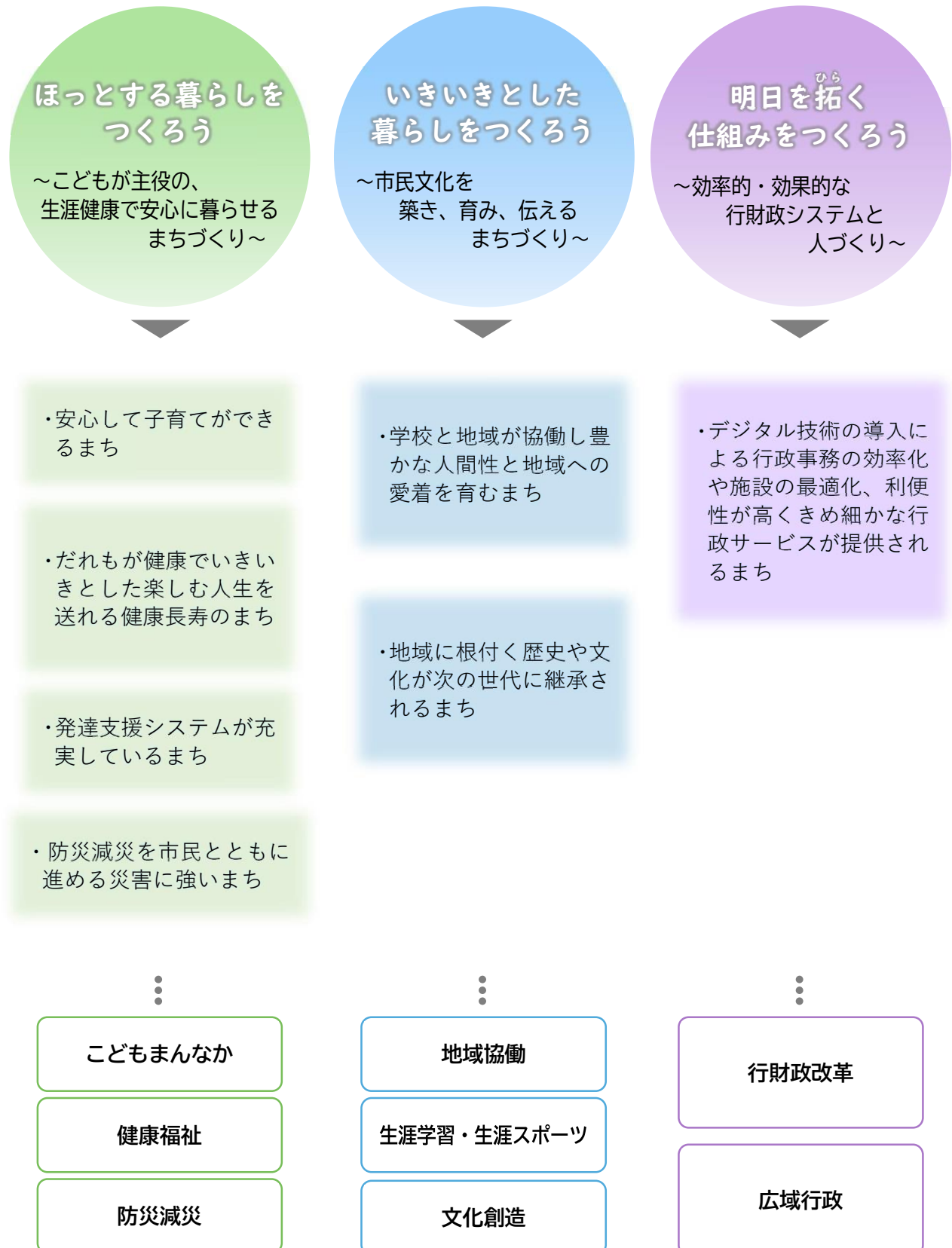


1. まちづくりの理念と将来像

まちづくりの目標・めざすまちの方向性

・重要な政策テーマ







2. まちづくりの目標

2. まちづくりの目標

●まちづくりの目標1

みんなで共に進める仕組みをつくろう

～小規模多機能自治のまちづくり～

少子高齢化と人口減少が加速する中で、ライフスタイルや働き方を含めた価値観が多様化しています。こうした時代背景を踏まえ、地域特性と国際的な視座を融合させた地域づくりが、今まさに求められています。また、人権の尊重を礎とし、互いの存在を認め合いながら共に生きるという理念は、まちづくりの根幹を成すものです。

湖南省は、20～30歳代の若年層が多く、加えて4,000人を超える外国人市民が居住しています。これまで、地域まちづくり協議会の地域住民によるまちづくり活動や「湖南省版小規模多機能自治」の展開、外国人生徒を受け入れる夜間学級の開設などの取組を重ねてきました。

社会環境や人々の暮らし方が大きく変化する中で、人が集う「場」の減少やコミュニティの希薄化が取りざたされています。そうした中でも、湖南省では若者がまちづくり活動に参加し、将来のまちの姿について意見を交わしてきました。「人と人とのつながり」を大切にその姿は、湖南省のかけがえのない希望と言えるでしょう。

市民の多くもまた、互いに協力し地域の美化や困っている人を地域で支えあう思いを持っています。地縁的なつながりが弱まると、地域によっては担い手不足などによってこれまで通りにできないことも出てきます。それでもなお、一人一人が支えあいの心もち、支えあおうとする市民の存在は、湖南省の特徴を生かしたまちづくりに欠かせない大きな強みです。

市民と行政の協働においては、単なる役割分担などの仕組みづくりに加え、「人と人とのつながり」や「話し合う」ことを根幹とすることが重要です。

湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来に向け、小規模多機能自治を進め、地域防災・地域福祉の構築、多文化共生の推進、人財育成など、重要度と市民ニーズの高い施策に取り組んでいきます。

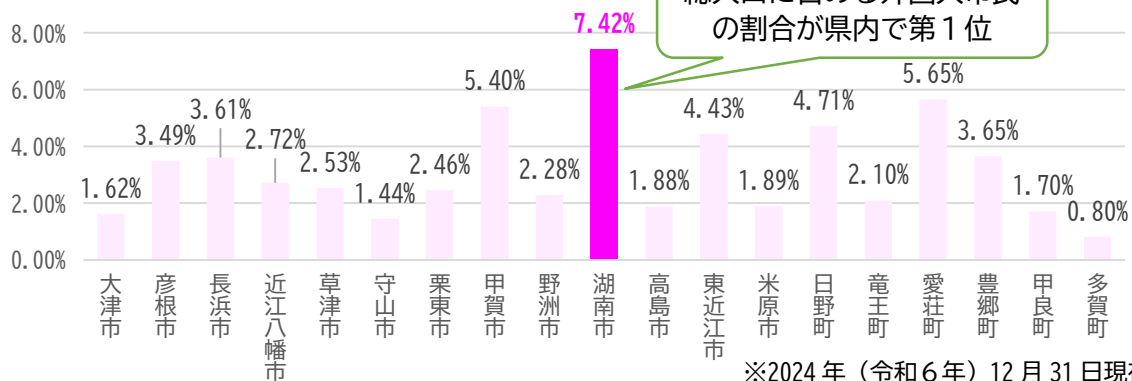
とりわけ、①湖南省版小規模多機能自治、②多文化共生、③人財育成、の3つを重要な政策テーマに据え、「オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち」、「多様な人、だれもが参画できるまち」、「若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

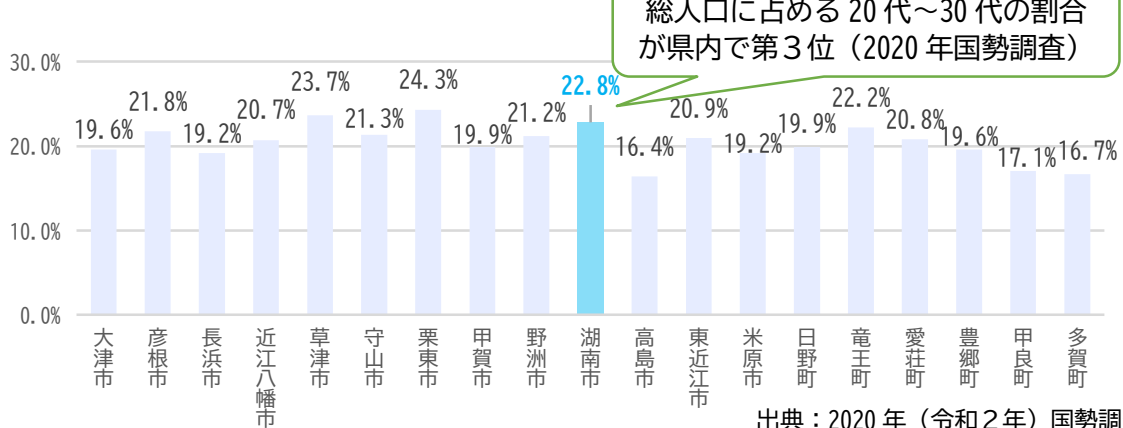
- ・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち
- ・多様な人、だれもが参画できるまち
- ・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

■市町別外国人人口の割合



総人口に占める外国人市民の割合が県内で第1位

■市町別若者（20～30代）人口の割合



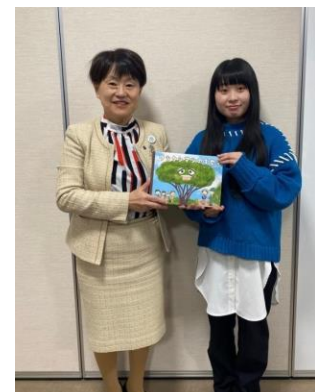
総人口に占める20代～30代の割合が県内で第3位（2020年国勢調査）



市民ワークショップで
企画を話し合う中学生



外国人市民も学ぶ
夜間学級の授業風景



「ウツクシマツ絵本」を制作した
こなんSDGsカレッジグローバル
リストの岡さくらさん（右）



2. まちづくりの目標

●重要な政策テーマ

政策テーマ1-1：湖南省版小規模多機能自治

◆湖南省版小規模多機能自治の推進

湖南省では、「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことを基本理念とした地域まちづくり協議会が主体となり、地域課題を自ら解決し、地域で支えあう仕組みを構築しています。行政は、市内4箇所の中学校区を生活圏域としてその取組をサポートする体制や連携の形を確立するため湖南省版小規模多機能自治を推進します。

◆地域防災の推進

社会資本（上下水道、橋、庁舎をはじめとする公共施設など）の耐震化による防災力向上に加え、地域住民のコミュニティ力（自助、共助）の強化による地域防災力の向上をめざします。

「向こう三軒両隣」のコミュニケーション力の強化をはじめ、区・自治会で構成する「ふるさと防災チーム」の充実、4箇所の中学校区単位での広域防災手法の創出、「消防団」や「防災士連絡協議会」による専門部隊の体系化、「消防署」や「災害対策本部」、「地区連絡所」といった行政機能との連携強化に努め市民全体で防災減災を実現できるよう推進します。



石部南まちづくり協議会の防災避難訓練



◆地域福祉の推進

地域には、さまざまな困難を抱えた人が暮らしており、だれもがいつ困り事に直面してもおかしくありません。湖南省では4箇所の中学校区ごとに高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターおよび出産・子育てに関する総合相談窓口である子ども家庭総合センターを設置しており、民生委員・児童委員、地域支えあい推進員と連携し、住民に寄り添い身近な相談ができる体制づくりを進めています。

地域支えあい推進員、民生委員・児童委員や事業者が連携し、相談・サポート体制を構築するなど、困り事や悩み事を抱え込み、問題が深刻化する前に、身近に気軽に相談することができる安心な地域社会を形成します。

政策テーマ1-2：多文化共生

◆外国人市民の地域定着

湖南省の特徴の一つとして、多くの外国人市民が暮らしていることが挙げられます。さまざまなルーツがある外国人市民は、湖南省の経済・社会活動を担う地域社会の一員です。2027年（令和9年）6月までに施行される育成就労制度は、外国人市民が将来にわたって我が国に定住することが見込まれる制度です。受入れを行う事業者による新たな制度への適応が円滑になされ、人手不足の解消につながることを期待されます。

外国人市民にとっても暮らしやすく、活躍しやすい地域社会を形成するため、相互理解を深める異文化コミュニケーションなど湖南省がこれまで培ってきた多文化共生の取組を継続し、関係団体と連携しながら事業者や地域団体による外国人市民が地域社会に馴染みやすいよう支援する積極的な取組を促進し、行政サービスなど有益な情報が円滑に届くようにします。



湖南省立水戸小学校の日本語初期指導教室「さくら教室」



2. まちづくりの目標

◆生活支援の充実

日本人にとってはありふれた日常のサービスや情報であっても、外国人市民にとっては、言葉の壁などによって不便を強いられる場合があります。

湖南省からの行政情報の提供や窓口サービスなどにおいて外国語対応を充実させ、特に防災に関する情報は外国人市民にも正確、迅速に伝わるよう対応するなど、外国人市民が安心、快適に暮らせる地域社会を形成します。

また、日本語初期指導が必要な児童生徒およびその保護者に対し、やさしい日本語からの学びの環境を整え、生活支援の充実に取り組みます。



政策テーマ1-3：人財育成

◆地域まちづくりの担い手の確保

地域住民の高齢化が進み、地域づくり活動の担い手が不足しています。また、コロナ禍の影響で地域の交流の機会が失われ、それらの活動の企画力や運営ノウハウも徐々に失われていくことが懸念されます。

NPOなどの中間支援組織と連携し、運営ノウハウに関する情報提供など人財育成に取り組みます。

また、学生など若者が地域づくりの活動に参画し、活躍できる機会が生まれるよう地域と若者がつながる場を設けるように取り組みます。

◆多様な市民が参画する仕組みづくり

湖南省では、これまでも湖南省が開催する各種会議などに市民の参画を得てまちづくりを進めてきました。

人財登録制度の運用を通して、若者、外国人市民、企業などの活躍の場を広げ、そのノウハウをワークショップなどでまちづくりに生かすことで、持続可能な地域社会を市民自ら創り上げるまちづくりを進めます。



地域と若者が一体となり湖南省の未来を考える「湖南省地域まちづくりフォーラム」



●まちづくりの目標2

うるおいのあるまちをつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

地球温暖化は全人類が直面する喫緊の課題であり、豪雨被害の頻発・激甚化など、私たちの生活にも密接に関わる問題です。

湖南省では、官民連携により自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を設立し、小売電力事業の収益をまちづくり事業などに活用してきました。また、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高く評価され、「SDGs 未来都市」に選定されています。さらに、太陽光発電を活用したエネルギーの一括管理と、独立電力供給網（マイクログリッド）の整備によって、再生可能エネルギーの自給自足を図ってきました。加えて、林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた「林福連携事業」が国に評価され、「脱炭素先行地域」にも選ばれています。

そして、多くの市民もまた、湖南省の将来の姿として自然がいっぱいのまちに希望を抱いていることから、環境や教育、福祉などと連携しながら、自然の豊かさやありがたさを将来に継承することは使命となっています。

市内には森や川と調和した大規模な公園が各所にあり、こどもから高齢者まで憩える場としての大きな潜在力を秘めています。こうした拠点となる個性的な公園やプロムナードは、地域住民の日常に安らぎを提供するとともに、市外からの訪問者を惹きつける魅力的な空間となる可能性を秘めています。

一方で、住宅地開発に伴い設置された小さな公園の中には、人口減少や少子高齢化により利用が低迷しているものも少なくありません。これら既存の公園や空き地の有効活用、維持管理の効率化は社会的課題です。そこで湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルを実現できるよう支えあうとともに、10年後の未来を見据え、地域ニーズに応じた公園機能の統廃合や再整備など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①こなんSDGs 未来都市の実現・脱炭素化、②公園活性化を重要な政策テーマに据え、「先行的な政策で脱炭素に取り組むまち」、「身近に緑とふれあえるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

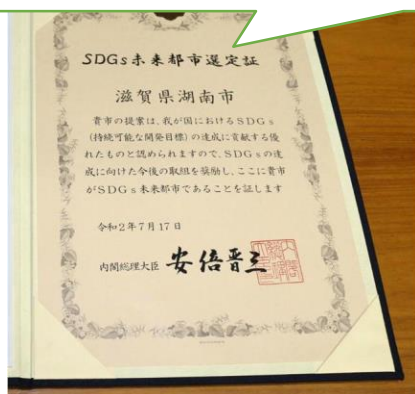


2. まちづくりの目標

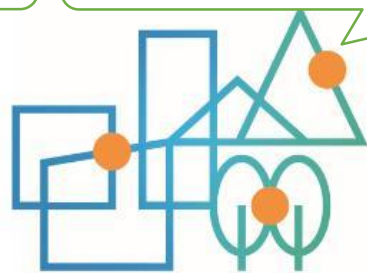
●めざすまちの方向性

- ・ 先行的な政策で脱炭素に取り組むまち
- ・ 身近に緑とふれあえるまち

2020年（令和2年）7月17日 「SDGs未来都市」に選定（内閣府）※県内初



2022年（令和4年）11月1日 「脱炭素先行地域」に選定（環境省）



脱炭素先行地域
滋賀県湖南市



憩いの場として注目されている森北公園



まちづくりセンターに設置している
太陽光パネル



公園遊具のペンキ塗りを楽しむ子どもたち



●重要な政策テーマ

政策テーマ2-1：こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化

◆こなんSDGs未来都市の実現

湖南省では、官民が連携し、小売電力事業の収益を活用してまちづくり事業などに取り組むことを目的として自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を2016年（平成28年）に設立しました。

官民が連携し、太陽光発電など自然エネルギー導入プロジェクトの実施、省エネ関連サービスの提供、農林業や福祉と連携した自然エネルギーの活用に取り組み、地域内のエネルギーの循環による地域経済活性化のまちづくりを進めます。

◆脱炭素の地域づくり

湖南省は、2020年度（令和2年度）にSDGs未来都市の選定都市として、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年（令和32年）までに市内のCO₂排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しています。また、官民連携での太陽光発電や蓄電池の導入によるエネルギーの一括管理や、林福連携事業が評価され「脱炭素先行地域」に選定されました。

湖南省の特性を生かしたエネルギーと経済の循環モデルの確立による持続的な脱炭素社会の実現、公共施設や民間の施設（工場・事業所）、住宅への太陽光発電・蓄電池などの導入促進などに取り組み、官民連携による脱炭素の地域づくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ2-2：公園活性化

◆魅力的で個性的な拠点となる公園の充実

市内には野洲川親水公園や森北公園、菩提寺運動広場などの自然豊かな大規模公園が各地にあります。市民はこれらの拠点的な公園を有効に活用し、集い、憩える空間の整備や子育てにやさしい公園の整備を求めています。

地域ごとに規模が大きな拠点的公園それぞれの特性を生かしながら、公園内に気軽に立ち寄って憩うなど市民がリフレッシュすることができる空間を整備し、魅力的で利用しやすい公園が多く市民に親しまれるまちづくりを進めます。

◆身近な公園の再編

市内には身近な小さな公園が多数ありますが、利用者が少ない、維持管理が不十分などの課題を抱えています。

市民に親しまれ、利用されている公園施設などの長寿命化や適切な更新を行うとともに、周辺住民や地域とのつながりを大切にしながら小規模で利用度が少ない公園の再編を実施するなど、市民の心と暮らしが豊かになる公園が身近にあるまちづくりを進めます。

◆自然環境・生態系の保全

湖南省は野洲川や阿星山系、岩根山系の丘陵地など豊かな自然環境に恵まれています。また、特色ある自然資源として国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」があります。

これらの豊かな自然環境および生態系を次世代に継承していくために、「平松のウツクシマツ自生地」を失わないよう保全し、また、地域や事業者と連携し森林や里山、農地、水辺をフィールドとする体験型の環境学習を通してこどもから大人まで市民の環境保全意識の向上を図るなど、いつまでも自然と生き物が豊かなまちづくりを進めます。



平松のウツクシマツ自生地



ウツクシマツ絵本
「ウツクシマツのキセキ」より



●まちづくりの目標3

活気あるまちをつくろう

～人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり～

少子高齢化と人口減少は社会全体に関わる課題であり、公共交通網や地域経済に深刻な影響をもたらしています。湖南省も例外ではなく、あらゆる世代の多くの市民が、通勤・通学や買い物などさまざまな目的で、JR草津線やコミュニティバスの利用にとっても不便を感じており、公共交通の利便性向上および新たな交通手段の検討が急務です。

一方で、国道1号の整備や名神高速道路栗東湖南ICの開設によって、湖南省の広域的な交通の利便性、重要性はますます高まっています。

そうした状況の中で、基幹産業であるものづくりを支えてきた経営者や職人などの豊かな人財が豊富であることは、湖南省の大きな強みです。彼らが培ってきた知見やネットワークを活用しながら、上述のさまざまな課題に向き合っていくことは、湖南省の将来を左右するような希望へとつながっています。住民・企業・行政が手を取り合えば、ライドシェアなど支えあいによる新たな交通手段の導入も十分に可能性があります。

同様に、商業、農業、観光などの産業振興や空き家対策においても、住民・企業・行政が協働することで成果を上げることができるでしょう。このように、湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、費用負担のあり方の検討も含む公共交通事業計画の再編、人づくりに重きを置いた産業振興、都市計画など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①公共交通、②都市計画、③企業誘致、④産学官連携の4つを重要な政策テーマに据え、「公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち」、「企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。



2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち
- ・企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち

大阪、名古屋から 100 km 圏内にあり、国道 1 号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王 I C、国道 8 号にもアクセスが良い



湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地がある



地域経済の自立度を表す指標である「地域経済循環率」は 111.7%と、県内市町で 7 番目に高い
(湖南市産業振興ビジョン)



県内最大級の湖南工業団地

製造品出荷額等は県内 8 位

運輸業・郵便業の純付加価値額は県内 3 位
(2021 年経済センサス)



市内を横断する国道 1 号



名神高速道路栗東湖南 I C 周辺の産業用地



●重要な政策テーマ

政策テーマ3-1：公共交通

◆公共交通の見直し

だれもが公共サービスなど必要な場所に移動することができる「移動の権利」を保障するため、公共交通ネットワークを維持することが重要です。一方で、交通事業者が公共交通サービスを任せるだけでは、地域の公共交通の水準を確保することが困難な状況です。

関係主体の役割分担や費用負担のあり方も踏まえた公共交通事業計画の再編に取り組めます。

J R草津線について、利用客増加策に取り組むとともに、関係団体などと連携しJ R西日本へ働きかけ、利便性の高いダイヤ編成の実現を推進します。

だれもが便利に移動できる交通環境の形成に向けて、コミュニティバスに加えてライドシェアなどの新しい交通手段の導入が求められています。

また、湖南省の地域特性に合致し地域に根ざした交通手段の導入に向け、産学官の連携による社会実験・先導的モデル事業の実施などを検討します。

◆バスの利便性向上

市内のコミュニティバス「めぐるくん」は石部駅・甲西駅・三雲駅などと接続しています。

通勤・通学を主たる利用者として位置づけ、鉄道などとの乗り継ぎやデジタル技術を導入した「めぐるくん」の現在位置情報の可視化などによる利便性の向上、利用実態やニーズに応じたバスルートの見直し、複数の事業者による役割分担など最適な運営主体の検討や利用者の確保、掘り起こしを検討し、利用しやすいバス交通の実現を図ります。



コミュニティバス「こにゃんバス」



2. まちづくりの目標

政策テーマ3-2：都市計画

◆駅周辺のまちづくり

市内には東西方向に走るＪＲ草津線に石部駅、甲西駅、三雲駅の３駅があります。効率的・効果的な都市経営を行っていくうえで、駅を中心としたまちづくりを進めることが重要です。また、駅周辺に多様な世代の人たちが集い・交流できる憩いの場を創出することが求められています。

駅周辺に魅力的な企業を誘致するとともに、住みたいと思える良質な住宅地の開発、既存商店街や沿道まちづくりの活性化、駅周辺に憩いの場を整備するなど３駅の周辺にさまざまな都市機能が集積するまちづくりを進めます。



石部駅南側駅前広場 完成図

◆計画的な市街地・住環境整備

湖南市は、古くは近江と伊勢を結ぶ伊勢参宮街道が通り、江戸時代には東海道が本格的に整備されたことで石部宿が置かれ、街道を中心とした産業や文化が発展しました。名神高速道路の開通に伴って栗東および竜王ＩＣなどに近接する有利な立地条件を生かした工業団地開発や、ＪＲ草津線開通に伴って京阪神都市圏への通勤・通学の利便性の高さからベッドタウンとしての住宅団地開発が進められてきました。さらに、２０１６年（平成２８年）に栗東湖南ＩＣが設置され、より交通利便性が高まりました。

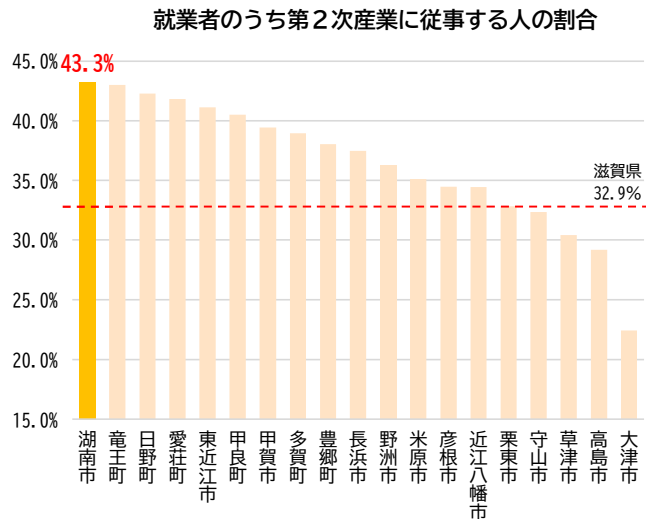
これまで整備してきた都市基盤の適切な維持管理、国道１号の４車線化をはじめとする道路の整備、質の高い住環境の整備や空き家対策、豊かな自然環境と調和する良好な景観の形成、野洲川をはじめとした河川改修整備を促進するなど、安全・安心で暮らしやすい環境を形成します。



政策テーマ3-3：企業誘致

◆企業立地の促進

湖南省は、国道1号や名神高速道路などの広域的な交通環境に恵まれています。この交通便利性を生かして、湖南工業団地をはじめとした5箇所の工業団地には多くの企業が立地しており、湖南省は、第2次産業の就業者人口割合が県内で最も高い割合を占めるなど製造業を中心に発展しています。



出典：「しが統計ハンドブック 2025」

市内の既存企業間の連携を図り、地域内の経済循環構造が形成されるよう協議の場を積極的に創出します。中小企業における生産性向上の取組や異業種交流の支援、湖南省のものづくり産業を支える職人や経営者が持つ志や知識、人脈を駆使するなど、優れた人財の知見を活用した企業が進出したくなるまちづくりを進めます。

また、卓越した技術を有する市内企業などとの連携を進め、市内外の大人や子どもに湖南省の魅力を感じてもらえる工場見学会などの新たな体験プログラムを創出し、湖南省の産品と国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」や「湖南三山」などの文化財、伝統行事などを織り交ぜた観光ツアーの実施をめざします。



2. まちづくりの目標

政策テーマ3-4：産学官連携

◆企業、大学、行政による連携機会の創出

湖南省では、2024年（令和6年）に健康状態の可視化や運動、食に強みを持つ大学および企業とともに協定を締結し、持続可能な健康のまちづくりを推進しています。

このような学術機関や民間事業者との連携の取組をさらに広げ、鉄道駅周辺の未利用地の活用による人が集まる場所づくりの社会実験を実施するなど、産学官が連携し、それぞれの強みを生かしたイノベーションを創出していきます。

◆産官学金労言士によるまちづくりの推進

地方創生においては、産学官に加え金融機関や労働業界、マスコミ、弁護士や中小企業診断士などで構成される推進組織による、地域経済の活性化やイノベーション推進に取り組むことが重要とされています。

湖南省では、これまで農産物の加工・流通・販売までを行う6次産業化などで産学官の連携に取り組んできました。

市内の状況に精通する人財に加え、全国的な優良先進事例に関わった経験があり、成功を導くノウハウを有するプレイヤーなどを招致し、都市部からの産業や人の流れを生み出し、活気あるまちづくりを進めます。



●まちづくりの目標4

ほっとする暮らしをつくろう

～こどもが主役の、生涯健康で安心して暮らせるまちづくり～

2023 年（令和 5 年）、社会全体でこどもと子育て世帯を応援し、こどもたちの最善の利益を第一に考え、こどもたちが健やかに成長できる「こどもまんなか」社会の実現をめざし、こども家庭庁が発足しました。

湖南省では、全国に誇る先導モデルである発達支援システムを筆頭に、福祉サービスの各分野において、社会変化に即した支援ネットワークの構築と人財育成に注力してきました。2024 年（令和 6 年）には、妊産婦、子育て世帯、こどもへの一体的な相談支援をより強化するため、「こども家庭総合センター」を設置しました。デジタル化により利便性を高めることに加え、保健師による産後ケア訪問などきめ細かな支援を行い、安心してこどもを産み育てることができるように「人と人」が支えあってこどもや子育て世帯に寄り添う支援の輪は、湖南省の自慢の光景です。

湖南省は、互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きることができる地域共生社会の実現を進めています。そのため、地域包括支援センターが中心となり、民生委員・児童委員・地域支えあい推進員と連携し、地域包括ケアシステムの構築を進めています。また、SOS のシグナルを発信することが難しい状況にある外国人市民向けにも、大切な情報を確実に届けることが重要であり、医療・危機管理の分野ではデジタルツールの活用が求められています。

湖南省では、あらゆる社会や理念の中心に「こども」を置き、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10 年後の未来に向け、支援を受ける人、支援の担い手となる人両方に配慮した相談窓口の仕組みづくりなど、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①こどもまんなか、②健康福祉、③防災減災の 3 つを重要な政策テーマに据え、「安心して子育てできるまち」、「だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち」、「発達支援システムが充実しているまち」、「防災減災を市民とともに進める災害に強いまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

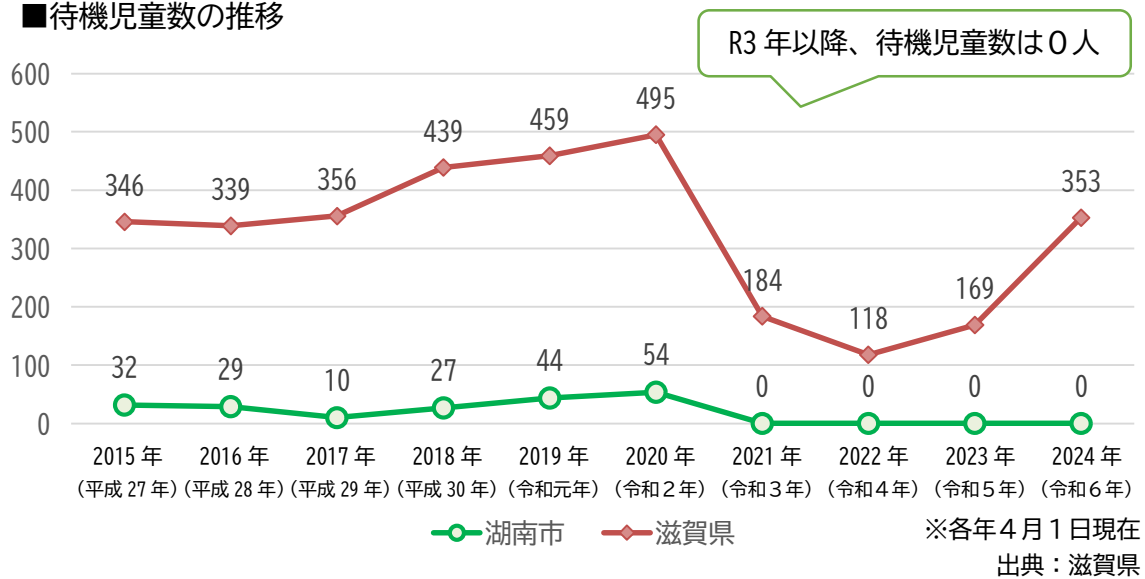


2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・安心して子育てできるまち
- ・だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち
- ・発達支援システムが充実しているまち
- ・防災減災を市民とともに進める災害に強いまち

■待機児童数の推移



「社会福祉の父」糸賀一雄氏が創設した近江学園、全国に先駆けて構築した発達支援システムがある



離乳食を始めるにあたっての講話や実演を行うもぐもぐ教室



妊娠・出産・育児について学び、仲間づくりを目的として開催されているママパパ教室



●重要な政策テーマ

政策テーマ4-1：こどもまんなか

◆子育て環境の充実

深刻な少子化や子育てしづらい社会環境、虐待や不登校の増加、ヤングケアラー（家族の介護や世話を日常的に担っている状況にあるこども）など、こどもおよび子育てに関して社会全体で取り組むべき多くの問題があります。これらは、いずれも放っておくことはできない早急に解決すべき課題です。

保育事業者と連携し保育環境の充実、保育の受け皿の適正な確保に取り組むほか、子育て世帯の経済的負担の軽減、さらには子育てしながら働きやすい就業環境づくりなど、社会全体でこどもの健やかな成長を見守り、安心してこどもを産み育てることができるまちをめざします。

また、地域のこどもが気軽に立ち寄れる場所で食事が提供されるなど、こどもの居場所づくりに取り組むことにより、支援が必要なこどもの早期発見と適切な支援につなぐ仕組みを構築します。

◆教育環境の充実

社会の変化や技術の発展は、一層スピードを増しています。変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育むことが大切です。

このため、家庭と地域と学校、行政が連携し、地域全体でこどもたちの「生きる力」を伸ばす体制づくりに取り組みます。

地域住民とのふれあいや地域の資源を生かした体験学習、課題解決型学習に取り組むなど、地域を深く理解し、愛着や誇りを育てます。



こどものことばの豊かさを育むため、音読集「ことばの宝石箱」の暗唱・群唱や「湖南市の小さな詩人たち事業」で歌や短歌を作っています



2. まちづくりの目標

◆子育て世代、若い世代への支援

雨天時のこどもの遊び場や保護者同士が交流する場、若者が気軽に立ち寄り過ごすことができる場の確保、子育てに関する相談窓口の充実に取り組むなど、憩いや交流がしやすく孤立が生まれないまちづくりを進めます。

また、事業者への働き方改革の促進により保育負担の軽減や延長保育、病児保育の充実を図ります。



遊び場や子育て情報の提供・相談ができる
「子育て支援センター」

◆発達支援システム・特別支援教育の充実

湖南省が培ってきた独自の発達支援システムは、乳幼児期から就労まで「たて・よこ・ななめにすき間なく」をモットーに関係機関が連携して切れ目のない支援で、だれ一人取り残さない障がい福祉の中核を担う仕組みであり、社会の変化に応じて充実を図ることが重要です。

さまざまな発達特性についての理解促進を図るとともに、システムを支える人材の育成・充実に取り組み、自立した地域生活が送れるよう関係機関が連携し障がいのある人のチャレンジをサポートできるまちづくりを進めます。また、特別支援教育については、関係する機関が個別調整会議などを通じて連携を強化し、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の居場所づくり、学びの支援を行うなど、全てのこどもが学べるまちづくりを進めます。



政策テーマ4-2：健康福祉

◆高齢者福祉の充実

いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、地域包括支援センターを中心に、地域包括ケアシステムの充実を図り、協働による見守りや支援ができる地域の体制づくりを進めます。

元気で活躍できる機会・場が地域にある、生活支援を必要とする高齢者やその介護をする家族に対するサービスがあるなど、予防とサポートの総合的な取組を進めます。

◆障がいのある人への生活支援サービスの充実

湖南省では障がいのある人の自立的な生活を支えるため、必要なサービスの提供や相談支援を行っています。通所型のサービスについては、在宅型の支援もあり、多様なサービスが広がっています。

障がいのある人を含めだれもがお互いに支えあいながら地域の中で自立した生活ができる環境を整えます。職場や学校などでそれぞれの能力を発揮し、自己実現が叶うあたたかい地域づくりを進めます。また、だれもが利用しやすい生活支援サービスの仕組みづくりを進めます。

◆健康づくりの推進

日本人の長寿化は世界最高水準にあり、湖南省でも着実に高齢化が進んでいます。長い人生をいつまでも健やかに暮らし続けるため、市民一人一人の健康増進への意欲と関心を高めることが重要です。

運動実施率の向上をめざし、「健康状態の可視化の仕組み」「運動」「食」の分野で強みのある企業との連携のもと、運動への無関心を好奇心に変え、市民が楽しみながら自然に運動習慣と正しい食生活が身につくプロジェクトを展開するなど、元気な100歳が活躍する地域社会を形成します。



地域の身近な場所で催されるサロン活動



2. まちづくりの目標

◆医療環境の充実

湖南省では公立甲賀病院および公立診療所、民間医療機関が連携し地域の医療環境の充実に取り組んでいます。

在宅医療・在宅福祉など医療と介護の連携による地域包括ケアの充実を図ります。

健康に関する正しい情報提供や定期的な健康診断を受診しやすい環境づくり、疾病予防に関する取組や医療環境の充実を図ります。

◆持続可能な地域共生社会の実現

医療・福祉・介護などの需要はますます大きくなり、求められるサービスの質も高度化しています。湖南省では、4箇所の地域包括支援センターに保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種を配置して機能を強化しています。職員の地域での活動が少しずつ認知され、各センターにおける相談件数は年々増えています。

小規模多機能自治を支える中心的な相談機関である地域包括支援センターの人財の確保・育成に取り組むとともに、待遇の見直しなど、将来にわたって持続可能な地域共生社会の実現に取り組めます。

政策テーマ4-3：防災減災

◆危機管理体制の強化

気候変動によって土砂崩れや水災害が激甚化、頻発化する状況にあります。また、南海トラフ巨大地震はいつ起きてもおかしくない状況です。

災害の予防・減災対策、応急・復旧対策など、市民の暮らしと安全を守り協働の防災対策を推進するための「セーフティコナン推進」を図るため、災害発生時に災害対策本部となる庁舎の防災性の確保や、地域の身近な指定避難場所の機能充実など危機管理体制を確立・強化します。

地域組織や避難時に配慮が必要な人が利用する施設の管理者などに対して防災対策の周知徹底や支援を行い、災害発生時にはデジタルツールを用いて必要な情報を効果的に発信するなど、災害に強いまちづくりを進めます。



災害対策本部



●まちづくりの目標5

いきいきとした暮らしをつくろう

～市民文化を築き、育み、伝えるまちづくり～

社会経済情勢の変化や技術革新は目覚ましく、社会が求める人財も絶えず変化しています。湖南省では2023年度（令和5年度）から、市内小中学校がICTの積極活用を進める「リーディングDXスクール」に指定され、デジタル技術を駆使した教育を展開しています。また、まちづくり活動に携わる人々が集う地域まちづくりフォーラムでは、中学生・高校生が学校を代表して成果を発表するなど、地域と密接に関わり合いながら、学校ごとに特色のある学習に取り組んでいます。

学びの場は、学校だけにとどまらず、地域と協働で学校運営を進める「コミュニティスクール」や小中学生の学習を地域で見守る「らくらく勉強会」など、こどもたちが楽しみながらふるさとへの愛着を育む、湖南省らしい地域ぐるみの教育が広がっています。

生涯学習分野では、スポーツ指導者の育成、文化芸術の体験機会の充実、文化財の保存・継承など、地域や関係団体が連携・協働して取り組むべきことが多くあります。そして、これらの課題は、若い世代の社会参画の機会として捉えて取り組むことで時代に合った魅力的な取組となり、活動の裾野の拡大が期待されます。そのためには、公共や地域企業との連携などにより、若者が集い・交流する場として利用したくなる、そして、若者自身が発信したくなるオープンスペースの創出が求められています。

湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、多様な世代が気軽に憩い、交流が生まれる「人の輪が広がる居場所づくり」など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいます。

とりわけ、①地域協働、②生涯学習・生涯スポーツ、③文化創造の3つを重要な政策テーマに据え、「学校と地域が協働して豊かな人間性と地域への愛着を育むまち」、「地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。



2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・ 学校と地域が協働して豊かな人間性と地域への愛着を育むまち
- ・ 地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち

■市町別国宝の指定件数（有形文化財）

	自治体名	件数
1	大津市	36
2	長浜市	6
3	湖南市	4
4	彦根市	2
5	甲賀市	2
6	野洲市	2
7	甲良町	2
8	竜王町	1
9	愛荘町	1
	合計	56

国宝数は県内3位

長寿寺本堂
常楽寺本堂、常楽寺三重塔
善水寺本堂

出典：滋賀県

2022年（令和4年6月29日）時点



長寿寺本堂



常楽寺本堂、常楽寺三重塔



善水寺本堂



小中学生の学習を地域で見守る
らくらく勉強会



●重要な政策テーマ

政策テーマ5-1：地域協働

◆若者の社会参画の促進

地域への愛着や誇りを醸成する意味でも、異なる年代とのふれあい、交流による青少年の健全育成、将来の地域づくりの担い手を確保・育成する意味でも若者が地域のまちづくり活動に参画することは重要です。

湖南省では、多様な主体との連携による地域活動の創出や未来の創造をめざすSDGs未来都市の推進の一環として「こなんSDGsカレッジ」を創設し、次世代を担う若者を中心に、多様なキーパーソンとともに、さまざまなまちづくり活動の体験やプロジェクトにチャレンジをしてきました。

主体的な学びの一環として地域づくり活動への参画の機会や場を設けるなど、若者が主体的に継続してまちづくりに参画できる仕組みづくりを進めます。



こなんSDGsカレッジ生が企画した市内4中学校の交流プロジェクト

◆人の輪が広がる場づくり

湖南省では、6箇所のまちづくりセンターと4箇所のコミュニティセンターが各地域に配置され、地域のまちづくり活動などの拠点となっています。気軽に集い、思い思いに好きな活動をすることができたり、仲間と交流したり異なる世代の人とふれあうきっかけとなるような場所が求められています。

地域のコミュニティ施設や拠点的な公園内のスペースを有効活用し、便利で快適、魅力的な空間づくりに向けて民間事業者との連携も検討するなど、市内各所に人の輪が広がる場があるまちづくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ5-2：生涯学習・生涯スポーツ

◆生涯学習環境の充実

湖南省では、市民が社会や地域の魅力、課題についての学びを深め、その力を発揮し、地域社会における多様な担い手になることをめざし、生涯学習の機会を提供するとともに、学びの成果を地域に生かせる仕組みの構築を図っています。

生涯学習活動参加のニーズは時代とともに内容が変化しながら高まっており、指導的役割を担う人財を確保・育成し、いつまでも学ぶ意欲にあふれる人がいきいきと輝くまちづくりを進めます。

◆教育プログラムの充実

湖南省では、デジタルツールを活用した教育に取り組むなど、これからの時代を生き抜く力を身につけるための特色のある教育を進めています。

「生きる力」を伸ばす特色ある教育プログラムの充実、指導者のスキルアップなど、こどもが意欲的に学びに取り組むまちづくりを進めます。

デジタル改革（DX）に対応する機器の導入や校舎など施設の老朽化対策、安全確保など安心して学ぶことができる環境づくりを進めます。



ICTを活用した教育

◆スポーツ環境・拠点の充実

余暇の充実や健康づくりへの関心から、運動やスポーツの重要性が高まっています。湖南省では、月1回のKONANスポーツデー（体育館開放事業）や湖南省のスポーツイベントの運営・実施に係る協力、スポーツ出前講座を実施しています。また、健康づくりへの関心の高まりから運動やスポーツの重要性が増す中、



市内のスポーツ施設や学校体育施設には、老朽化した施設が複数あります。これらの施設の計画的な修繕、だれもが利用できるようにユニバーサルデザインの考え方に基づく改修、ニーズの変化に合わせた機能の充実を進めます。

全天候型施設を求める市民の声への対応、近隣市町との広域連携による特色のある施設の相互利用にも取り組むなど、楽しく快適に運動・スポーツに取り組むことができる環境づくりを進めます。

◆図書館機能の充実

蔵書の充実をはじめ、こどもが読書に親しむ機会や生涯学習機会の充実と情報提供など、市民が気軽に図書館を訪れ快適に利用してもらえるよう、利便性やサービスの向上に向けた検討を継続し、世代を問わず、心の健康にもつながる居場所となるような図書館の機能充実を進めます。

政策テーマ5-3：文化創造

◆歴史文化遺産の保存・継承と活用

市内には、国宝湖南三山をはじめとする有形・無形の文化財、歴史的な文化遺産が多数あります。地域の人口減少や高齢化などにより、一部でこれらの歴史文化遺産の適切な保存・継承が困難となる問題が生じています。

将来世代への責任として、これらの貴重な歴史文化遺産を適切に保存・継承していくためにも、湖南市の内外に広く価値を発信することが重要です。

歴史的建造物の周辺の景観形成や芸術文化活動との連携による魅力のPR、映像や調査などによる記録保存をはじめ、資料や調査成果の公開・活用などにより、先人が残した歴史文化を受け継ぎ、責任を持って未来へ引き継ぐまちづくりを進めます。

◆文化芸術活動の振興

2023年度（令和5年度）から文化ホールを湖南市が直接運営しており、多くの来場者に楽しんでいただいています。

文化ホールの長寿命化を図るとともに、来場者が快適に利用できる環境づくりを進めます。

また、まちのさまざまな場所に文化芸術活動の発表の場を設けることや、文化芸術に関わる指導者や若年層の人財の発掘・育成の支援を行うなど、市民にとって身近で創造的な文化芸術を振興します。



2. まちづくりの目標

●まちづくりの目標6

明日を拓く仕組みをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムと人づくり～

少子高齢化および人口減少の進行を前提とした効率的かつ効果的な行財政運営を実現するために、デジタル技術の最大活用はもはや不可欠な課題となっています。コロナ禍の影響によってさまざまなデジタル技術の社会実装が進みました。キャッシュレス決済や非接触、リモートでのコミュニケーションなどを支えるデジタル技術の有用性が社会全体に浸透し、市民生活、企業活動、行政サービスの各領域において、今後、よりいっそうデジタル化の推進による効率化と利便性の向上が求められています。

そうした中、市民が市政情報を入手する主な手段は、今もなお「広報こなん」や自治会・町内会の回覧板となっています。電子申請サービスでは諸証明の利用が多く見られた一方で、電子申請サービスができることを知らない、または方法が分からない市民もいます。このため、電子申請サービスなどの周知を図るとともに、デジタル技術を活用し、市民の利便性向上および事務の効率化を推進し、その成果として生じる資源を人財育成やきめ細かな対応を要する業務へ再配分し、行政サービスの質的向上を図ることが求められます。

また、国道1号の4車線化、JR草津線の複線化、広域幹線道路整備など、広域的な諸課題への対応には、これらの課題を共有する周辺自治体との連携が不可欠です。現在、県内8市による自治体クラウドシステムの共同利用が進んでおり、今後も課題に応じ最適な広域枠組みを検討し、連携を一層強固にしていきます。

このようにして、湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、「競争に耐えうる行政システム」と「質の高い人財育成」など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①行財政改革、②広域行政を重要な政策テーマとして、「デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的・計画的な行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

- ・デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち

●重要な政策テーマ

政策テーマ6-1：行財政改革

◆自治体DXの推進

行政サービスにおいて以前から電子申請の拡充を図るなどデジタル化の取組を進めてきましたが、コロナ禍を経て、社会の広範囲においてデジタル技術を活用した非接触・非対面のサービスが浸透しました。

電子申請の一層の拡充やキャッシュレス対応など、窓口サービスの改革とその周知により市民の利便性向上と業務の効率化を一体的に進めます。

市民が優先的なデジタル化推進を求めている医療の充実および危機管理体制の整備に対応するとともに、デジタル技術を活用して、公共施設の利便性および稼働率の向上と施設管理の効率化を両立するなど、市民満足度の高い行政サービスのデジタル化を進めます。

◆財政の健全化

総人口の減少、生産年齢人口の減少などにより歳入の根幹である市税収入にも影響を及ぼす可能性があります。

効率化による経費の削減、国・県補助金の確保のほか、企業版ふるさと納税や市有財産を活用した新たな財源の確保にも取り組み、歳入と歳出のバランスが取れた財政が健全で持続可能なまちづくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ 6-2：広域行政

◆近隣市町との連携

県内8市で自治体クラウドシステムの共同調達を行い費用の大幅な削減を実現しています。また、消防、衛生センター、公立甲賀病院など甲賀市との連携により効率的な行政サービスの提供を行っています。

J R草津線複線化や国道1号4車線化、野洲川の河川改修など、隣接する甲賀市や栗東市との連携により広域的な課題の解決に取り組んでいます。

加えて、野洲市および竜王町とは、広域的な交通ネットワークの充実など共通する課題の解決に取り組んでいます。

人口減少や社会経済情勢の変化に伴うさまざまな行政課題に対し、公共交通や防災、人財育成などの広域的に対応すべきものについて最適な枠組みを検討し、広域的な課題を解決できるまちづくりを進めます。